

第2章 研究開発の内容

1 研究体制

2 SGH キックオフセレモニー（中止）

3 中高各学年の SGH 活動実施概要

- （1）中学1年
- （2）中学2年
- （3）中学3年
- （4）高校1年
- （5）高校2年
- （6）高校3年

4 課題研究

- （1）高校1年～地域課題研究
- （2）高校2年～異文化研究
- （3）高校3年～キャリアパス探究

5 SGH クラブの活動

- （1）SGH クラブ研究班（海外）
- （2）SGH クラブ研究班（国内）
- （3）SGH クラブディベート班
- （4）SH クラブフランス語班

6 海外グローバル研修（中止）

7 授業のシンカ

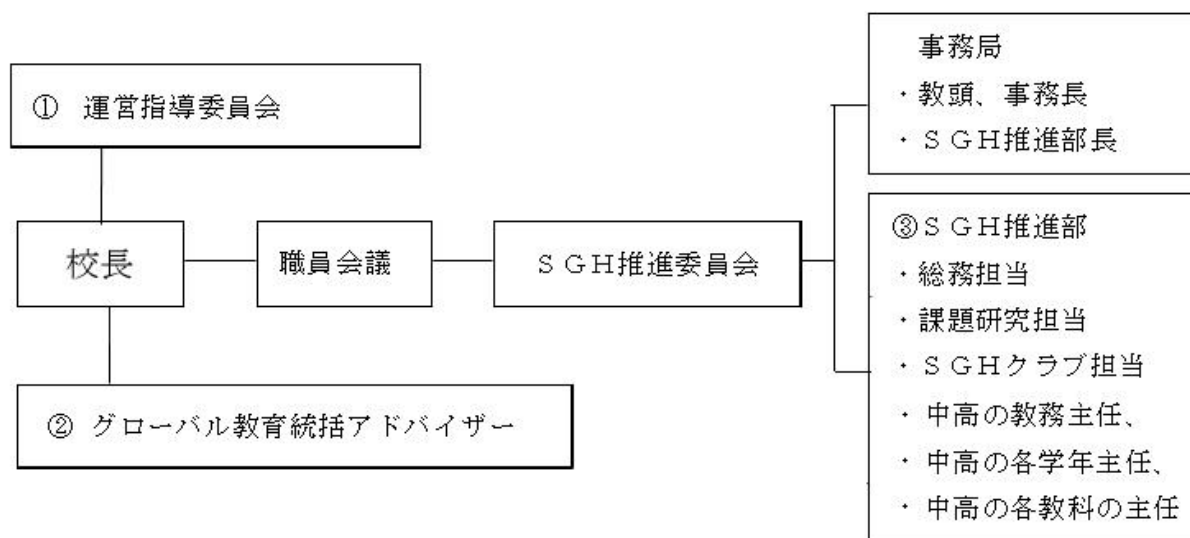
- （1）学校設定教科目「CTP（Critical Thinking Program）」
- （2）学校設定科目「グローバル情報」
- （3）アクティブラーニング

8 SGH 活動の成果の発表・普及・啓発

- （1）課題研究発表会
- （2）他校種への普及活動
- （3）各種行事、講演会等での発表・大会、コンテスト等への参加
- （4）各種広報活動

1 研究体制

(1) 研究開発組織図



①運営指導委員

- ・国際教養大学学長 鈴木典比古 氏（委員長）
- ・目白大学人間学部児童教育学部 田尻信壹 氏
- ・立教大学副総長 国際化推進機構長 池田伸子 氏
- ・大学共同利用機関法人情報・システム研究機構極地研究所教授副所長 伊村智 氏
- ・株式会社あしぎん総合研究所代表取締役社長 小又 正高 氏

②グローバル教育統括アドバイザー

- ・東京海洋大学教授グローバル教育研究推進機構 小松俊明 氏
- ・宇都宮大学教授学長特別補佐 松金公正 氏

③ SGH 推進部

- ・部長 大嶋浩行、副部長 高久順、栗原啓子
- ・（高校）高久順、清水紘治、川俣海瑠、片柳哲也、久保田一志、武田直樹、島田佐智夫、根岸良輔、青山均、木村晃子、吉永一行、戸田圭一、大嶋俊彦、岩田大輔、松井博司
- ・（中学）栗原啓子、富永恭子、石塚弘幸、高木利文
- ・（SGH クラブ）大嶋浩行、高久順、清水紘治、川俣海瑠、片柳哲也、久保田一志、大和里美
- ・栗原啓子、富永恭子、石塚弘幸、高木利文
- ・中高の教務主任、各学年主任、教科主任

(2) 連絡協議会等

ア 令和2(2020)年度 意見交換会

(ア) 日時 令和2(2020)年10月29日（木）

(イ) 本校校長室、オンライン

(ウ) 参加者 青柳育夫、吉川知宏、大嶋浩行、高久順

イ 令和 2 (2020) 年度 意見交換会

(ア) 日時 令和 3 (2021) 年 2 月 2 日 (火)

(イ) 場所 本校校長室、オンライン

(ウ) 参加者 青柳育夫、吉川知宏、大嶋浩行、高久順

2 キックオフセレモニー (中止)

3 中高各学年の主な SGH 活動実施概要

(1) 中学1年 SDGs 研究 「持続可能な社会にするために私たちにできることは何か」

ア SDGs 研究「身近な環境問題について考えよう」「自分の地域の課題について考えよう」

- ① 目的 身近な環境問題や地域の課題を「SDGs 持続可能な開発目標」の視点から考えるとともに、プレゼンテーションのスキルを学ぶ。
- ② 日時 通年実施
発表① 令和2(2020)9月4日(金)
旭城祭時に実施
発表② 令和3(2021)1月26日(火)
5, 6, 7校時
- ③ 内容 SDGs の視点から身近な環境問題と、自分たちの住む地域の課題点をグループで相談しながら今自分たちができることを研究し、発表を行う。
- ④ 成果 小学校時で行ってきた総合での経験を活かしつつ、SDGs の視点を入れて考察することで視野を広げることができた。また、パワーポイントでの発表も慣れ、プレゼンテーション能力の育成も図ることができた。



イ SGH リレー講座 「田中正造 ～郷土の偉人に学ぶ～」

- ① 目的 本校の SGH 活動の核となる「田中正造」について理解を深めるとともに、SGH 活動への興味関心を高める。
- ② 日時 令和2(2020)年11月20日(金) 6・7限目
- ③ 場所 本校旭城ホール
- ④ 対象 中1全生徒
- ⑤ 講師 佐野市郷土博物館
館長 茂木 克美 様
- ⑥ 内容 田中正造の生涯とその精神について、分かりやすく説明いただき、「足尾鉍毒事件」についても学習できた。
- ⑦ 成果 郷土の偉人田中正造翁についての功績を知り、「リーダーとは」という問いに対する答えを持つことができた。



ウ SGH 足尾植樹活動

- ① 目的
 - ・足尾での植樹体験や砂防事業についての見学や体験を通して、自然の大切さや環境問題の重要性を学ぶ。
 - ・環境問題を解決するために自分に何ができるのかを考え、積極的に取り組んでいこうとする意欲を高める。
- ② 日時 令和2(2020)年11月2日(月)
- ③ 場所 国土交通省 渡良瀬川河川事務所
足尾砂防出張所管内の山林
足尾町環境学習センター
- ④ 対象 中1全生徒
- ⑤ 内容 田中正造講話を聞き、フィールドワークとして現地を訪れ、NPO 法人「足尾に緑を育てる会」の協力の下に植樹活動を行った。私たちの郷土栃木県を想い、「ふるさと」の合唱を実施した。



- ⑥ 成果 現地を訪れ足尾の環境問題に触れることで、SDGsへの関心をより高めることができた。

エ SGH リレー講座 環境教育講話「世界のエネルギー事情とソーラークッカーの利用」

- ① 目的 太陽熱を利用したソーラークッカーと、発展途上国におけるエネルギー事情について理解する。
- ② 日時 令和2(2020)年11月6日(金)
- ③ 場所 本校旭城ホール
- ④ 対象 中学1年全生徒
- ⑤ 講師 足利工業大学 工学部 中條祐一教授
- ⑥ 内容 発展途上国におけるソーラークッカーについての役割を理解できた。
- ⑦ 成果 SDGsと関連する事柄だけに、世界の環境問題や貧困等の実状を知り、より意識を高めることができた。



オ 藍染めプロジェクト(全4回)

- ① 目的 藍の苗の植え付け、管理、葉の収穫、すくも作り、藍建てという一連の体験を通して、藍に対する興味関心を高め、藍のサステナブルな活用方法について考える。

【事前講話】

- ② 日時 令和2(2020)年6月9日(火) 6・7限目
- ③ 場所 本校第1体育館・校庭
- ④ 対象 中学1年全生徒
- ⑤ 講師 藍紹座 風間 幸造 様
- ⑥ 内容 講話「田中正造と藍」「藍とは何か。」「藍のもつ力について」



【藍栽培】

- ② 日時 令和2(2020)年6月9日(火)
7限目に植え付け
令和2(2020)年11月5日(木) すくも作り
令和3(2021)年1月23日(土) 藍建て
令和3(2021)年1月28日(木) 藍染め体験
- ③ 場所 本校旭城ホール・校庭・総合創作室
- ④ 対象 中1全生徒
- ⑤ 内容
- ・プランターに土を準備し、藍の苗の植え付けを行う。
 - ・水やりや葉の収穫、乾燥を行う。
 - ・温度、湿度管理を行い、すくも作りを行う。
 - ・クラスごとに染め液を作る。
(毎日温度、pHの管理を行う)
 - ・クラスごとにデザインを考え、Tシャツを染める体験を行う。
(各個人はハンカチを染める体験を行う。)



- ⑥ 成果 藍の植え付け方や藍に関する講話を聞き、生徒達の興味関心が高まった。SDGsと関連させて、サステナブルな藍の活用方法を考えられた。また、こまめに水やりや葉の収穫を行い、生長を身近に観察し育てた藍で染め液を作り、染め体験をしたことで藍の可能性について考える貴重な体験になった。



- (2) 中学2年 ～ 日本の伝統文化と国際理解について探究しよう
 さまざまな職業について知り、自分の将来について考えよう

ア 伝統文化教室「華道」

- ① 目的 総合的な学習の時間「未来探究プログラム」の伝統文化に関する学習の一環として、華道の基礎を学ぶことにより、華道の意義や価値観を理解し、日本の伝統文化を理解し尊重する態度を育てる。
- ② 実施時期 令和2(2020)年6月～12月(全5回)
- ③ 対象 中学2年全生徒
- ④ 内容 第1回目：講話及びデモンストレーション
 第2回目：実技①基本「たてるかたち」
 第3回目：実技②基本「たてるかたち」
 第4回目：実技③基本「かたむけるかたち」
 第5回目：実技④基本「ひらくかたち」
- ⑤ 成果 花を生ける上での基本を学び、花材の取り合わせやかたちの調和を楽しみつつ植物の特徴や美しさを発見することができた。また、生徒それぞれが創造力を働かせて作品を完成させる喜びを知ることができた。



イ 職業についてのプレゼンテーション「働く人々と職業」

- ① 目的 ・職場体験学習(マイ・チャレンジ)に向けて、職業についての理解を深める。
 ・得た情報や知識を、聞き手により分かりやすく伝えるスキルを身に付ける。
- ② 日時 令和2(2020)年8月30日(日)旭城祭
- ③ 対象 中学2年全生徒
- ④ 内容 パワーポイントを使った個人発表
 ＊事後に4観点について自己評価を実施
 観点：(ア)発表態度(話し方・声量など)
 (イ)テーマ設定と発表内容
 (ウ)パワーポイントの活用
 (エ)その他(聞き手に伝えるための工夫など)
- ⑤ 成果 各自が興味を持った職業について調べたことを聞き手に分かりやすく伝えるにはどうすればよいかを考え、発表を行った。パワーポイントを効果的に使い、観客に質問するなど、聞き手を飽きさせないプレゼンテーションとはどのようなものかを理解することができた。



ウ 職業人講話・インタビュースキルトレーニング

- ① 目的 職場体験学習(マイ・チャレンジ)に代わるキャリア・進路学習として、さまざまな職業に携わる職業人の話を聞きインタビューすることにより、職業の社会における役割や、社会で必要とされる力や考え方について学ぶ。
- ② 日時 令和2(2020)年9月～11月
- ③ 対象 中2全生徒
- 講師：高校教諭・幼稚園教諭・警察官・市役所職員・看護師・消防士
 新聞記者・船長・デイサービスセンター所長・農業従事者(10名)



④ 内容 全5回

- (ア) 9月2日(火)「働くこと」の目的と「職業・職種」について学ぶ
- (イ) 9月8日(火) インタビュースキルトレーニング
- (ウ) 10月13日(火) インタビュー内容を考える
- (エ) 11月2日(月) 職業人講話
- (オ) 11月5日(木) 講師の方に御礼の手紙を書く・振り返り



- ⑤ 成果 今年度は職場体験学習(マイ・チャレンジ)が中止となったため、職業人講話を半日から1日に拡大しての実施となったが、働く目的について考えたり、普段接点の少ない中高の教員を職業人講話の講師に見立ててインタビューの練習を行ったりすることで、効果的なインタビューの仕方や目上の方とのやりとりや、効果的なインタビューの仕方を学ぶ良い体験になった。

エ 伝統文化教室「歌舞伎鑑賞」

- ① 目的 歌舞伎を鑑賞することで、日本の伝統文化を深く理解し、尊重する態度を育てる。
- ② 日時 令和2(2020)年11月4日(水) 国立劇場
- ③ 対象 中2全生徒
- ④ 内容
 - (ア) 高校社会科教員による歌舞伎講話
 - (イ) 歌舞伎鑑賞
 - (ウ) 日本の伝統文化と国際理解に関する探究活動・新聞づくり



- ⑤ 成果 事前学習として、高校社会科教員を講師に招いて歌舞伎についての講話を聞き、演目の内容について学習したことで、歌舞伎の面白さを十分に味わうことができた。事後の探究活動では、今年度体験した華道・歌舞伎の他にも和柄、相撲、落語など、それぞれに興味を持った日本の伝統文化・伝統芸能について調べたり、海外の文化と比較したりした上で、それらを今後どのように世界に発信していけばよいか、という提言にまとめ、新聞紙上で発表することができた。



(3) 中学3年 ～課題研究（シンカゼミ）～

①シンカゼミ（課題研究）

- a 目的 課題研究や発表の手法を学び、高校での課題探究活動への意識を高める。
 - b 日時 通年、総合的な学習の時間（週2時間）
 - c 対象 中3全生徒
 - d 内容
 - ア 3つの分野（「環境・郷土」「職業・産業・福祉」「伝統文化・国際理解」）の中から自ら課題を設定し、グループを決定する。
 - イ グループごとに調査、研究を進める。必要に応じて実験や調査、校外でのフィールドワークを行う。
 - ウ パソコン室、図書室、タブレットなどを適宜使用する。
 - エ 分野ごとの発表会を実施し、担当教員や同グループの生徒による審査・投票により、代表班を各分野から1班選出する。代表班は、高校主催のSGH成果発表会で発表する。
- *今年度は、分野ごとの発表会を2月2日（火）、SGH成果発表会を3月3日（水）に実施。オンラインにて参観。

<主な研究テーマ>

分 野	主な研究テーマ
A 環境・郷土	・ 外来種対策 ～クビアカを撃退！～ ・ 佐野市のリサイクルについて ・ 川に住む生物にとって住みやすい水質とは？
B 職業・産業・福祉	・ 教育とコロナ ・ 米の消費量を上げる！ ・ 空き家について ・ 足利市の芸術と文化の活動 ・ 就業人口の少ない職業に活力を取り戻すために
C 伝統文化・国際理解	・ バレエはなぜ日本では親しんでもらえないのか？ ・ 佐野文化とサブカルチャー ・ 佐野市の国際化 ・ 外国人が住みやすい街づくりについて

- e 成果
 - ・ 身近な事柄に対する問題意識を持ち、主体的に問題解決の手立てを考えたり実行したりすることができた。
 - ・ プレゼンテーションソフトを用いての効果的な発表の仕方を工夫し、聞き手を意識したプレゼンテーションの力が身に付いた。
 - ・ 高校の課題探究活動への関心や期待が高まり、良い動機付けとなった。



<筑波小でのフィールドワーク>



<シンカゼミ中間発表会>



<「耳うどん」を用いて調理>



<シンカゼミ本発表会>



③平和学習

- a 目的 世界で唯一原爆を投下された国として、その歴史を正しく理解し、平和の大切さを再認識する。
- b 日時 令和2(2020)年10月13日(火)
- c 場所 旭城ホール
- d 対象 中3全生徒
- e 内容 国立広島原爆死没者追悼平和記念館にて日頃から被爆体験伝承者として活躍されている講師の河内悦枝様から、原爆投下時の広島の様子や被爆された方々の体験談を拝聴する。
- f 成果 原爆投下直後の広島の様子を聞くことにより、その悲惨な歴史を体感し、平和の大切さについて深く理解することができた。

〈河内様による平和講話〉



〈生徒たちが作成した千羽鶴〉



④修学旅行

- a 目的
 - ・日本の文化、経済、産業、歴史などの重要地を訪れることにより、視野を広め、見聞を深める。また、グローバル社会の中で、日本文化の素晴らしさを再認識し、それを伝承していくことの大切さを学ぶ。
 - ・戦争の悲惨さを知り、正義と平和を愛する心をもった国際人として活躍できる真のリーダーとしての精神を育む。
- b 日時 令和2(2020)年11月3日(火)～5日(木)
- c 場所 関西方面(奈良・京都)
 - *例年は広島も訪問していたが、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために、今年度は中止。
- d 対象 中3全生徒
- e 内容
 - ・学年全体での奈良・京都研修
 - ・京都班別研修・京都クラス別研修
 - ・英語での修学旅行記の作成
- f 成果
 - ・未知の日本の文化、歴史がまだたくさんあることに気づき、さらに視野を広げたり、学びを深めたりしようとする良い契機となった。
 - ・修学旅行記を作成し展示することで、修学旅行で自分が学んだことを英語で保護者や同級生に伝えることができた。

〈奈良や京都での寺社の見学〉



〈英語で修学旅行記の作成〉



(4) 高校1年

ア 課題研究

- ① 目的 地域課題を研究することを通して、研究とは何かを理解させる。
- ② 日時 令和2年(2020)年4月～令和3(2021)年3月
- ③ 内容 下記の通り
- ④ 成果 1年生全員が地域社会の課題を研究し、発表をすることができた。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、グループ研究から個人研究へと例年とは異なる取り組みがなされたが、生徒一人ひとりに担当がつき、丁寧に指導することで、生徒たちは研究方法の概略を理解することができた。また、週1回の研究やフィールドワークをゼミ(グループ)形式で行っているため、個人での成果をゼミ内で共有し、互いに意見し合うことで、研究を論理的にまとめようとする力や情報に対して批判的に試行する力、協同して課題を解決しようとする力がついた。さらに、地域に目を向けることで身近なところで起こっている社会現象に興味を持つようになった。

高1 地域課題研究実施内容

回	月 日	実施内容
	4月 9日(木)	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休校
	4月14日(火)	同上
	4月16日(木)	同上
	4月23日(木)	同上
	4月30日(木)	同上
	5月 7日(木)	同上
	5月14日(木)	同上
	5月21日(木)	同上
	5月28日(木)	同上
第1回	6月 4日(木)	コンピテンシーアンケート 作文「COVID-19 感染拡大をめぐる状況から考える」
第2回	6月11日(木)	課題研究オリエンテーション
第3回	6月18日(木)	課題研究① 新聞記事を用いたグループワーク(社会に関心の目を向ける)
第4回	6月25日(木)	課題研究② 『課題研究メソッド』をテキストに、研究方法を説明。
第5回	7月 2日(木)	卒業生シンポジウム
第6回	7月16日(木)	課題研究③ 本校の設定する6領域のガイダンス
第7回	7月30日(木)	課題研究④ 研究所属領域・仮テーマ提出
	8月 3日(月)	フィールドワークの日 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
第8回	8月20日(木)	課題研究⑤ テーマと仮説を設定する。
第9回	9月 3日(木)	地域リーダーズシンポジウム

第10回	9月10日(木)	課題研究⑥ 領域別に分かれ、個人で研究を深める。
第11回	9月17日(木)	課題研究⑦ 領域別に分かれ、個人で研究を深める。
第12回	9月24日(木)	英語プレゼンテーションコンテスト
第13回	10月1日(木)	課題研究⑧ 領域別に分かれ、個人で研究を深める。
第14回	10月15日(木)	課題研究⑨ 領域別に分かれ、個人で研究を深める。
第15回	10月22日(木)	課題研究⑩ 領域別に分かれ、個人で研究を深める。
第16回	10月29日(木)	課題研究⑪ 領域別に分かれ、個人で研究を深める。
第17回	11月5日(木)	課題研究⑫ 領域別に分かれ、個人で研究を深める。
第18回	11月12日(木)	課題研究⑬ 領域別に分かれ、個人で研究を深める。
第19回	11月19日(木)	課題研究⑭ 個人で研究を深めつつ、学年フィールドワークへの準備も行う。
第20回	12月3日(木)	課題研究⑮ 個人で研究を深めつつ、学年フィールドワークへの準備も行う。
第21回	12月10日(木)	学年フィールドワーク
第22回	12月12日(土)	学年フィールドワーク 振り返り
第23回	12月17日(木)	GPSアカデミックテスト
第24回	1月14日(木)	課題研究⑯ 領域別に分かれ、個人で研究を深める。
第25回	1月21日(木)	課題研究⑰ 領域別に分かれ、個人で研究を深めつつ、課題研究発表会への準備を行う。
第26回	1月28日(木)	課題研究⑱ 課題研究発表会への準備、ポスター作製を行う。
第27回	2月2日(火)	課題研究発表会
第28回	2月3日(水)	課題研究発表会
第29回	2月4日(木)	課題研究⑲ 課題研究のまとめ・見直し
第30回	2月25日(木)	課題研究⑲ 成果発表会の準備
第31回	3月3日(水)	課題研究発表全体会
第32回	3月18日(木)	1年の反省・まとめ

(5) 高校2年 ～異文化研究～

ア 課題研究

- ① 目的 地域課題研究で設定したテーマについて、世界の国々ではどのようなことが課題になっているのか調査、研究する。
(例年であれば上記の内容で研究を行っているが、今年度に限り、地域・個人改題研究とし、世界の先進国との対比とした)

- ② 日時 令和2(2020)年6月～令和3年3月

- ③ 内容 下記の通り

第1回	6月4日(木)	課題研究オリエンテーション
第2回	6月5日(金)	コンピテンシーアンケート (COVID-19について作文)
第3回	6月11日(木)	教科書要約
第4回	6月12日(金)	テーマ決め①(キーワード抽出)
第5回	6月18日(木)	テーマ決め②(キーワードマッピング)
第6回	6月19日(金)	テーマ決め③(キーワードロジックツリー)
第7回	6月25日(木)	文献調査
第8回	6月26日(金)	キーワードマッピング・ロジックツリー制作①
第9回	7月2日(木)	キーワードマッピング・ロジックツリー制作②
第10回	7月16日(木)	キーワードマッピング・ロジックツリー制作③
第11回	7月30日(木)	研究テーマ決定
第12回	8月20日(木)	研究手法確認①
第13回	8月27日(木)	研究手法確認②
第14回	9月3日(木)	個人研究①(中間発表会用ポスター製作①)
第15回	9月4日(金)	個人研究②(中間発表会用ポスター製作②)
第16回	9月10日(木)	個人研究③(中間発表会用ポスター製作③)
第17回	9月11日(金)	個人研究④(中間発表会用ポスター製作④)
第18回	9月17日(木)	個人研究⑤(中間発表会用ポスター製作⑤)
第19回	9月18日(金)	中間発表会①
第20回	9月24日(木)	文献調査①
第21回	9月25日(金)	中間発表会②
第22回	10月1日(木)	文献調査②
第23回	10月2日(金)	中間発表会③
第24回	10月9日(金)	中間発表会④
第25回	10月15日(木)	個人研究①(成果発表会用①)
第26回	10月16日(金)	個人研究②(成果発表会用②)
第27回	10月22日(木)	個人研究③(成果発表会用③)
第28回	10月23日(金)	個人研究④(成果発表会用④)
第29回	10月29日(木)	個人研究⑤(成果発表会用⑤)
第30回	10月30日(金)	個人研究⑥(成果発表会用⑥)
第31回	11月5日(木)	個人研究⑦(成果発表会用⑦)
第32回	11月6日(金)	個人研究⑧(成果発表会用⑧)

第33回	11月12日(木)	個人研究⑨(成果発表会用⑨)
第34回	11月13日(金)	個人研究⑩(成果発表会用⑩)
第35回	11月19日(木)	個人研究⑪(成果発表会用⑪)
第36回	11月20日(金)	個人研究⑫(成果発表会用⑫)
第37回	12月3日(木)	個人研究⑬(成果発表会用⑬)
第38回	12月4日(金)	個人研究⑭(成果発表会用⑭)
第39回	12月10日(木)	個人研究⑮(成果発表会用⑮)
第40回	12月11日(金)	個人研究⑯(成果発表会用⑯)
第41回	12月17日(木)	個人研究⑰(成果発表会用⑰)
第42回	12月18日(金)	個人研究⑱(成果発表会用⑱)
第43回	1月15日(金)	成果発表会用ポスター作成①
第44回	1月21日(木)	成果発表会用ポスター作成②
第45回	1月22日(金)	成果発表会用ポスター作成③
第46回	1月28日(木)	成果発表会用ポスター作成④
第47回	1月29日(金)	成果発表会用ポスター作成⑤
第48回	2月2日(火)	学年別成果発表会
第49回	2月3日(水)	学年別成果発表会
第50回	2月4日(木)	課題研究パワーポイント作成①
第51回	2月5日(金)	課題研究パワーポイント作成②
第52回	2月25日(木)	課題研究パワーポイント作成③
第53回	2月26日(金)	課題研究パワーポイント作成④
第54回	3月3日(水)	課題研究発表全体会

②台湾グローバル研修(コロナのため中止)

(6) 高校3年～ グローバル発展「キャリアパス探究」

ア「キャリアパス探究」

① 目的 2年間取り組んできた、「地域課題研究」、「異文化研究」についてまとめ、卒業後、大学等で引き続き追究したい内容について考え、自分の進路に関して宣言文を作成し、考えを深める。

② 対象 高校3年生

③ 研究の方法

担当の指導を受けながら、以下の Stage の順に作業を進める。

Stage1	1, 2 年次の課題研究のまとめ：2 年間の取組を整理する。
Stage2	「学びの計画書」の作成：Stage1 を元に高校卒業後の自分の学びの計画を立てる。
Stage3	「シンカ宣言」の作成：3 年間の学びを踏まえ、「将来自分はこうありたい」という思いを英語で宣言する。

4 月：緊急事態宣言発令による休校

5 月：緊急事態宣言発令による休校

6 月：「キャリアパス探究」に関する説明、Stage1 開始

7 月：Stage1、Stage2、指導教員との個別面談

8 月：Stage2、Stage3を進める。指導教員との個別面談

9 月：Stage3の完成、提出

④ 取組状況

入学以来2年間取り組んできた課題研究のダイジェストを、「課題研究の振り返り」(B4用紙1枚)及び「わたしの学び計画書」(A4用紙1枚)にまとめ、両者を統合したものを「わたしのシンカ宣言」(A4用紙1枚。大学以降の探究、そして自らの人生、生き方につなげ、宣言文にする)にまとめた。

本活動の目的は、これまで取り組んできた課題研究を振り返り、SDGs(持続可能な開発目標)の解決に向けて自分の何が生かせるか、どう貢献していきたいか。自分のキャリアパスを考えることにある。1月の生徒アンケートでは、佐高の伸ばしたい6つの力のうち⑤「英語で伝える力」と⑥「グローバル社会に貢献する高い志」が高1年次から高3年次にそれぞれ段階的に大きく伸びている。その他の5つの力についても、全てにおいて上昇しており、本活動の有用性が示されている。

図表1 2020年度3年(SGH4期生)における6つの力の比較

	1回目 高1 (2019年4月)	2回目 高2 (2020年1月)	3回目 高3 (2021年1月)
佐高SGHが伸ばしたい6つの力			
①課題を発見し向き合う力	59.9%	77.3%	76.9%
②論理的・批判的に思考する力	61.5%	74.8%	79.2%
③協働して課題を解決する力	61.9%	73.2%	78.2%
④情報を発信する力	71.8%	78.6%	88.1%
⑤英語で伝える力	27.9%	47.9%	53.8%
⑥グローバル社会に貢献する高い志	45.4%	64.6%	80.3%

⑤⑥が、3年間渡って大きく伸びていることが分かる。

4 課題研究

(1) 高1「地域課題研究」の実践

授業時間 総合的な学習の時間（1単位、木曜7時限）

内容によっては、CTP（木曜6限）と合わせて、2コマ連続で実施

対象 高校1年生

目標 「田中正造型」グローバルリーダーの資質・能力の育成

主な授業内容

第1回 作文「COVID-19 感染拡大をめぐる状況から考える」

- ① 目的 新型コロナウイルス感染症について考え、そこから社会へ関心の目を向ける。
- ② 日時 令和2(2020)年6月4日（木）7限目
- ③ 内容 課題研究に取り組むにあたり、今回社会が直面した未曾有の危機について考え、そこから社会へ関心の目を向ける。新型コロナウイルス感染症の情報や報道の内容を情報収集し、自分の意見を作文としてまとめることで、自分がどんな分野に関心があるのかをメタ認知する。
- ④ 成果 生徒にとって近々の話題であり関心が高い題材であったため、取り組みは非常に良かった。また、作文の題材は同じであったが、内容は生徒個人によって多岐にわたり、自分がどの分野に関心があるのかをメタ認知する良い機会となった。この成果を踏まえ、社会（地域）の課題に目を向け、研究へと踏み出す良いアプローチにもなった。

以下、生徒の作文の主な内容（主題）

- ・新型コロナウイルス感染症による人体への影響について
- ・新型コロナウイルス感染症による感染者への差別について
- ・新型コロナウイルス感染症による報道の在り方について
- ・新型コロナウイルス感染症による休校中の教育のあり方について
- ・新型コロナウイルス感染症による休校中の遠隔授業について
- ・新型コロナウイルス感染症による働き方（リモートワーク）について
- ・コロナ禍における高齢者や社会的弱者へのケアについて
- ・コロナ禍における法整備について
- ・コロナ禍における特定の業種への補償について

第2回 課題研究オリエンテーション

- ① 目的 今年のSGH活動（課題研究）の流れを理解する
- ② 日時 令和2(2020)年6月11日（木）7限目
- ③ 内容 本校のSGH構想（右図）と、定める6領域の説明を行い、1年におよぶ地域課題研究のマップを理解させる。
- ④ 成果 高校一年生がこの一年間でどのような活動をしていくのか、大きな方向性や意義について理解させることができた。



佐野高校・同附属中学校
SGH構想

第3回 課題研究① 新聞記事を用いてのグループワーク（社会に関心の目を向ける）

- ① 目的 第2回で説明した6領域の理解を互いに確認するとともに、社会の出来事に関心の目を向ける。
- ② 日時 令和2(2020)年6月18日（木）7限目
- ③ 内容 自分が関心を持った新聞記事や、学校側からサンプルとして示した新聞記事を持ちより、系統ごとにグループ化することによって、第2回で説明した6領域の理解を互いに確認させる。また様々な新聞記事に目を通すことによって、社会が抱える問題や課題について関心を持たせる。
- ④ 成果 作文「COVID-19 感染拡大をめぐる状況から考える」で、社会を取り巻く問題や課題などについて考えたこともあり、生徒の取り組みは良く、グループワークをすることで新聞記事の内容について生徒同士で意見を交わし、社会の出来事についての関心を高めることができた。また、領域ごとにグループ化していくことで、前回説明を受けた6領域の枠組みを確認することができた。

第4回 課題研究② 『課題研究メソッド』をテキストに、研究方法を説明。

- ① 目的 研究手法やリサーチエッションについて、またフィールドワークの意義について理解する。
- ② 日時 令和2(2020)年6月25日（木）7限目
- ③ 内容 『課題研究メソッド』を用いて、研究とは何か、その意義等について理解する。
- ④ 成果 地域課題研究に不可欠なフィールドワークを行うための考え方の基礎を学ぶことができた。また、リサーチエッションとは何か、研究とは何かについて、テキストに沿って学ぶことができた。ただし、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、この時点でのフィールドワークはできず、また今後の再開の見通しも立たないため、フィールドワークの活動計画を立てることもできず、生徒にとって実感を持って理解させることは出来なかった。

第5回 卒業生シンポジウム

- ① 目的 本校SGHプログラム課題研究に意欲的に取り組んだ令和2(2020)年3月卒業生を招く。シンポジストとしてプレゼン及び質疑応答を分科会形式で行うことを通して、高校1年生がSGH地域課題研究の具体的な研究テーマを決定するきっかけとする。
- ② 日時 令和2(2020)年7月2日（木）6・7限目
- ③ 内容
 - (1) 13:30 シンポジスト来校（ZOOM準備）
シンポジスト（2020年3月卒業生）
スリランカ班：茂木愛唯・大芦さくら・須藤彩・若田部亜季美
米粉班：河野航平・神林拓未・東原陸・清水楓菜
台湾班：松澤あさひ・西川紗生・坂井里衣・新井里梨
教育班：新井康平・古橋愛唯・杉江悟
 - (2) 13:55～15:35
 - ①13:55-14:45（1回目）[6時限目]
 - ②14:55-15:45（2回目）[7時限目]

※シンポジストによる講演は1年1組で行い、各クラスにZOOMで映像を配信する。

※教室ごとにタブレットを用意し、シンポジストに質問できるようにする。

(3) 16:05～16:45 情報交換会（シンポジウム終了後、情報交換会、選択教室③）

- ④ 成果 昨年まで在籍していた本校生（卒業生）ということもあり、生徒は熱心に話を聴く姿勢が見られた。スリランカ班の茂木さん、大芦さん、須藤さん、若田部さんからは、どうしてスリランカに目を向けるようになったのか（動機）や、国際比較をする上での注意点など、分かりやすく説明していただいた。米粉班の河野さん、神林さんからは、佐野市の方々と連携をして商品開発を行ったこと、その商品を学校祭（旭城祭）で販売し、マーケティング調査を行ったことなどのお話を紹介していただいた。台湾班の松澤さん、西川さん、坂井さん、新井さんからは、現地（台湾）に行った際に、どのような調査を行ったか、また、日本から台湾にどのようなアプローチを図って研究を進めたかを紹介していただいた。教育班の新井さん、古橋さん、杉江さんからは、あらためて研究手法の大切さや、アンケート調査をする際の留意点、そして情報を扱う上で、その信憑性などを十分吟味することの大切さなども教えていただいた。どの班の先輩方からも、共通して「まず学校から飛び出して、現場に赴く（フィールドワークをする）大切さを認識してほしい。」という話があった。高校生たちも、（コロナ禍でフィールドワークの目途は立たないながらも）研究を進める上での良き指針となり、意識を高めることができた。

〈シンポジウムの様子〉



第6回 課題研究③ 本校の設定する6領域のガイダンスと仮テーマ検討

- ① 目的 本校の設定する6領域の確認を改めて行い、仮の研究テーマを検討する。
- ② 日時 令和2(2020)年7月16日(木) 7限目
- ③ 内容 前回の卒業生シンポジウムの振り返りと6領域の確認を行い、自分の今の関心や考えを基に仮テーマを検討する。
- ④ 成果 課題研究メソッドで確認した事項と卒業生シンポジウムでの先輩方の講話の内容に関連性が見られたこともあり、生徒の振り返りもスムーズに行えた。今年は例年のグループ研究ではなく個人研究となるため、個人のテーマの内容也多岐にわたり、担任や担当教員との打ち合わせを密に行う必要があるが、その時間的余裕と教員側の人数的な余裕が現状確保できないなどの課題も浮き彫りとなった。

第7回 課題研究④ 研究所属領域・仮テーマ提出

- ① 目的 研究所属領域と仮テーマを決定する。
- ② 日時 令和2(2020)年7月30日(木) 7限目
- ③ 内容 6領域の中で課題設定可能なものを選ぶ。また、自分のテーマを仮として設定し、生徒同士で研究の見通しがつくかどうかを検討しあう。また、担当教員とも個別に検討する。
- ④ 成果 自分の所属領域を決定することができた。また、自分の設定した仮テーマが研究可能なものかを検討することにより、より良いテーマの設定に近づくことができた。

第8回 課題研究⑤ テーマと仮説を設定する。

- ① 目的 テーマと仮説を設定する。生徒同士でテーマと仮説を発表し合い、意見交換し、内容の妥当性を検討する。
- ② 日時 令和2(2020)年8月20日(木) 7限目
- ③ 内容 先行研究などを調査したうえで、テーマと仮説を設定する。その後、生徒同士でテーマと仮説を発表し合い、意見交換し、内容の妥当性を検討する。また、並行して担当教員と面談を行い、テーマ設定の妥当性について検討する。
- ④ 成果 例年であれば仮説を設定する際にリサーチクエッションを明確にする作業を行っているが、今年は例年実施している夏休みのフィールドワークも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため行うことができず、的確にリサーチクエッションを設定できる生徒は多くなかった。その中でも、生徒たちは自宅や学校のパソコン、各自のスマートフォンなどを用いて資料を検索したり、電話やメールでインタビュー(取材)をしたりし、なんとかテーマと仮説を決定するに至った。

第9回 地域リーダーズシンポジウム

- ① 目的 地域の様々な分野のリーダーを講師として招き、専門的な話を聞き、生徒が自分の研究を進める際の参考とする。
- ② 日時 令和2(2020)年9月3日(木) 6・7限目
- ③ 内容 地域のリーダーから6領域に分かれてそれぞれの分野の専門的な話を聞き、質疑応答を行う。

〈領域及び講師〉

領域	氏名（敬称略）	所属（役職名）	研究または活動内容
①災害・公害からの復興	玉井 成美	佐野からあげ協会会長 株式会社なるねこ代表取締役	令和元年台風19号で被災。市民レベルで共助体制を構築。
②自然・生命	飯郷 雅之	宇都宮大学農学部教授、環境文化都市やいた創造会議アドバイザー	魚類・カラス類の研究、市民協働型生物多様性調査、Scienceカフェ。
③食料・エネルギー・水	中里 聡	中里建設(株) 代表取締役	JICA インドネシア事業で水道水質の改善事業。唐沢山神社奉仕活動。
④環境と経済・法律	吉川 千福	(株)吉川油脂 代表取締役	家庭用廃油の100%リサイクル事業。天ぶら油をエタノール燃料へ。
⑤まちづくり・コミュニティ	吉澤 章裕	空港サービス(株)代表取締役 葛生 jr リーダークラブ、ピースボート船内講師他多数	ケニア・スラム街の子どもの人権活動、葛生 Film コミッション等多数。
⑥教育・人権・文化	中山 昌樹	認定こども園あかみ幼稚園理事長	こども園を中心とした新たな地域コミュニティ創り、子育て支援等。

- ④ 成果 地域のリーダーから専門的な話を聞くことで、知識を得ただけでなく考え方を学ぶことができた。教師からではなく実際に働いている人の言葉を聞くことができ、生徒たちは大いに感化された。講演後の情報交換会に生徒も参加し、講演中は聞くことができなかった個人的な質問も踏まえて話すことができた。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のためフィールドワークができず、研究が思うように進められない事情を踏まえ、講師の方々は「いつでも協力する。」「呼んでくれれば何度でも学校に手伝いに来る。」とも仰ってください、地域の方々の本校生を応援してくださるお気持ちと頼もしさに、生徒たちも教員も励まされる思いであった。

なお、当初の予定では、例年より期日を約1か月前倒しした5月14日（木）であった。講師の方々には当初の日程からの変更に対応していただいた。

また、例年より全体の時間を約50分増やし、各講師の講話の時間を20分とした。それにより、例年よりも講師の方のお話をじっくりと聞くことができ、内容を深めることができた。

〈シンポジウムの様子〉



〈生徒の感想〉

「大きな問題でもコツコツと行うことで解決の大きな一歩になると強く感じた」
 「先入観を持たず、広い視野と様々な視点を持ち今後の研究をすすめていきたい」
 「課題研究を通して様々なことを吸収し、明るい未来を示せる人材になりたい」
 「それぞれの言葉で地域資源を住民自身がそれと認識することが大切と話されていた」
 「変えるためには、外部の人が言っても変わらない、外部と連携して中の人が言う！」

第12回 英語プレゼンテーションコンテスト

- ① 目的 生徒の身近な課題に仲間と話し合い、企画を考え、プレゼンテーションを行うことで、自らの考えを表明する楽しさを体験し、英語を用いたプレゼンテーションスキルの向上を図る。
- ② 日時 令和2(2020)年9月24日(木) 6・7限目
- ③ 内容
- 13:55～14:00 開会
- 14:00～14:08 発表①(発表3～5分、質問2分、出入り1分)
発表②～⑦
- 15:00～15:15 審査結果の発表・表彰・講評
審査員: 学校長・SGH部長・1学年英語科
- ④ 成果 今回発表する7チームはすでにコミュニケーション英語Ⅰの授業時に選出された代表の班であり、一度授業時に発表を行っているため、役割分担や進行などはスムーズに行えた。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な学校行事や学年行事が中止されていることもあり、他クラスの生徒の活動を学年全体で共有できる貴重な機会にもなった。
- 発表した生徒は、緊張しながらも堂々と英語でプレゼンテーションを行うことができ、聞く側の生徒たちも実際に同学年の生徒の発表を見ることで、高いプレゼンテーション能力や英語力を養うことができた。

〈生徒の感想〉

「授業で発表した時より緊張してしまい、早口になってしまった。また、手元の原稿ばかりを見て話してしまったため、次回はなるべく前を向いて話せるようにしたいと思った。」

「緊張したが、上手くできてよかった。終わった後に友人から褒めてもらい、頑張ってやってよかったと思った。」

「代表の班の人たちの英語力の高さに驚いた。自分も英語を勉強しなければならないと思った。」

「英語が早口で聞き取れない班もあったが、丁寧にゆっくり説明してくれる班や、絵やジェスチャーで伝えてくれた班もあり、プレゼンテーション能力も大事なんだと思った。」

「英語で発表していた人たちもすごかったが、それを聞いて質問している人たちもすごいと思った。」

〈発表グループメンバーおよびプレゼンテーションタイトル〉

Order 発表順	Team チーム名	Student Number 生徒番号	Name 生徒氏名（英語）	Title タイトル	Title in Japanese 日本語タイトル
1	私たちの 蒼い地球	1405	UCHIMURA YUNOSUKE	How to get our school to achieve a Guinness World Record	どうやって佐高 がギネス世界 記録を取るか
		1403	IWAKAMI WATARU		
		1420	TASHIRO AYUMI		
2	アナマリア	1102	ISHIZUKA RINKA	How to make our school the most famous in the world	学校を世界一有 名にする方法
		1120	SEKIME KEITA		
		1126	NAGASHIMA SONO		
3	consent	1106	OHSAWA NANO	How to earn 100,000,00 yen with all the students in our school	全校生徒で1億 円稼ぐ方法
		1122	TANAAMI KOUKI		
		1129	NAKAMURA KOKORO		
4	N. H. K.	1331	HIRAKAWA HARUKA	Think of the only club activity in Japan	日本で唯一な 部活動を 考えてみる
		1303	ARAKAWA NARU		
		1318	SARUHASHI KOUDAI		
5	Pipikaula	1226	NAGASHIMA CHIZUKA	How to get our school to achieve a Guinness World Record	どうやって佐高 がギネス世界 記録を取るか
		1220	SHIMOFURE MOTOZUKU		
		1223	TAKAYAMA YUTO		
6	Team K. S. N	1215	KUROSAKI MEI	How to earn 100,000,00 yen with all the students in our school	全校生徒で1億 円稼ぐ方法
		1222	SEKIZUKA YAMATO		
		1229	NIWANO AKIO		
7	Ikemen is justice!	1402	ARAI MIZUKI	How to get our school to achieve a Guinness World Record	どうやって佐高 がギネス世界 記録を取るか
		1417	SHIBUYA SUMIRE		
		1311	MAINA KAWAKAMI		

第21回 学年フィールドワーク

- ① 目的 本校のSGHの課題研究のテーマである「持続可能な社会の実現」を目指し、社会課題を発見・設定する上で必要となる資質や能力を高める。
- ② 日時 令和2(2020)年12月10日(木) 終日(1～7限)
- ③ 行先(方面)
 - (ア) 栃木県芳賀郡茂木町(ふみの森もてぎ・もてぎプラザ・美土里館)
内容：町長講話、ふみの森もてぎ・美土里館見学 等
領域：【3食料・エネルギー・水】、【5まちづくり・コミュニティ】
 - (イ) 国際医療福祉大学(大田原市)
内容：視察、講話
領域：【2自然・生命】、【6人権・教育・文化】
 - (ウ) 吉川油脂(佐野市)・織物関連遺産(桐生市)・足利まちなか遊学館(足利市)
内容：講話、のこぎり屋根工場群見学、ミニ・シンポジウム
領域：【1災害・公害からの復興】、【5まちづくり・コミュニティ】
 - (エ) 栃木県庁・フードバンクうつのみや・とちぎボランティアネットワーク
栃木県国際交流協会・とちぎスポーツ医科学センター・カンセキスタジアムとちぎ
内容：講話、施設見学、インタビュー
領域：【4環境と経済・法律】、【1災害・公害からの復興】、【6人権・教育・文化】

④ 成果

(ア) 栃木県芳賀郡茂木町(ふみの森もてぎ・もてぎプラザ・美土里館)

茂木町商工観光課観光係の田中のり子様にアテンドしていただき、ふみの森もてぎ、もてぎプラザ、美土里館などを見学させていただいた。ゆずもホールでは茂木町長古口達也様、茂木町企画課企画係為永崇志様、商工観光課商工係白田拓也様に講話をいただいた。

古口町長のお話では、「自分で考えることが何より大切。しかし、学びの素地がないと自分で考えることはできない。だから今しっかりと学習に努めてほしい。」といった内容もあり、生徒の価値観を揺さぶる良いきっかけとなった。

また、美土里館ではゴミとされる落ち葉と、高齢者を結び付ける取り組みなどを紹介していただき、生徒たちにとっては大変参考になった。

〈フィールドワークの様子〉



〈生徒の感想〉

「美土里館の取り組みで、地域の住民とこれだけ協力しながら環境問題を解決できるのはすごいと思いました。このような施設を作るためには、たくさんのメリットを提示して、地域の方々と連携をしなければならず、難しいことだと思いますが、佐野市でも同じような取り組みができればいいなと思います。」

「町民から落ち葉を買い取ることで、結果的に町民の健康を支えることに繋がっているということに驚いた。」

「町長さんのお話が心に残った。話の中に、勉強の大切さと、友人の大切さについてがあり、あらためて自分もそれらを大切にしていこうと思った。」

「美土里館の、今までゴミとされていた落ち葉をたい肥に変えて売するという取り組みは、自分の研究しているフードロスにも当てはまる考え方だと思った。」

(イ) 国際医療福祉大学（大田原市）

医療福祉という現場でどのような仕事があるのかをお話しいただいた。また、医療で使用する装置の仕組みなどを見学させていただいた。

また、高齢者の孤立化の問題に取り組む、一般社団法人「えんがお」代表理事濱野将行様に講演していただき、高齢者の孤立化の現状を説明していただいた。お話の中では、「丁寧に生きることが大切」などの言葉もあり、生徒の記憶に強く残った様子だった。

〈フィールドワークの様子〉



〈生徒の感想〉

「理学療法士と作業療法士の違いを学ぶことができた。」

「MRIの装置などを見ることができてとても感動した。」

「丁寧に生きることの大切さを学んだ。今日の話を忘れないようにしたい。」

「週に1度でも若者と話しをすることで助かる高齢者の方があると知って感動した。」

「濱野さんのお話を聞いて、私も祖父母と一緒に暮らしているので、二人と過ごす時間をもっと大切にしたいと思いました。また、濱野さんの「丁寧に生きることが大切」という言葉に感動しました。」

「人とのつながりが大切という内容は、児童虐待や子どもの貧困の問題を解決しようという自分の研究に活かせると思った。」

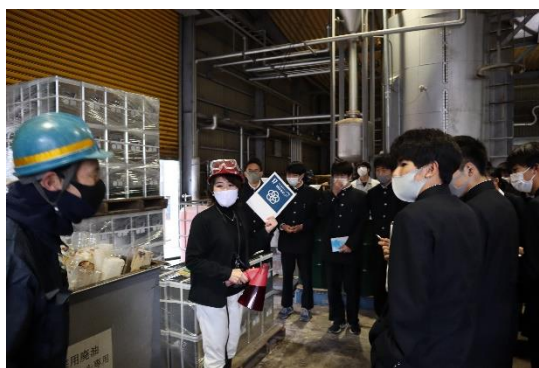
「子どもにとって効果的な教育とは？という質問に対して、濱野さんは周りの大人が笑顔でいることだと仰っていたので、自分の研究に活かせる内容だと思った。」

(ウ) 吉川油脂（佐野市）・織物関連遺産（桐生市）・足利まちなか遊学館（足利市）

吉川油脂での見学では、廃油のリサイクルのプロセスを紹介していただき、環境問題に取り組む生徒たちに具体的な取り組みを理解させる良い機会となった。

足利市でのシンポジウムでは、まちづくりに関する様々なヒントを得ることができた。また、観光客は来るものの、一定のポイントだけに行き、そのまま帰ってしまうという、町が抱える課題なども知ることができた。

〈フィールドワークの様子〉



〈生徒の感想〉

「吉川油脂はゴミとして廃棄していた油を様々な方法で燃料にしたり道路にしたりして循環型社会を目指しており、地域に貢献している点がすごいと思った。」

「吉川油脂さんが現在取り組んでいるSDGsは6個であること、そして障がい者雇用率が高いということに感銘を受けた。」

「NGOの方から、たくさんのゴミ処理場をフィールドワークで訪れ、違いを比較することを勧められたので、ぜひそうしたいと思った。」

「足利には多くの観光客が来るものの、特定のポイントだけに行って帰ってしまうということを知り、それが足利の商店街などの過疎化と結びつくのかなと思いました。私は特産品の研究をしているので、その点も含めて研究を進める必要があると思いました。」

(エ) 栃木県庁・フードバンクうつのみや・とちぎボランティアネットワーク

栃木県国際交流協会・とちぎスポーツ医科学センター・カンセキスタジアムとちぎ
宇都宮市内でのフィールドワークでは、生徒たちは事前にコンタクトを取り、栃木県庁の各部署や市内の各団体に取材し、それぞれの研究内容に沿った情報や資料を手に入れることができた。

とちぎスポーツ医科学センターとカンセキスタジアムとちぎでは、アスリートを支援する設備の紹介や、栃木で開催される国体に向けての取り組みなどを紹介していただき、栃木県のスポーツ政策についても理解を深めることができた。

〈フィールドワークの様子〉



〈生徒の感想〉

「防災については、十分な準備をしていると思っていても、実際に起きると足りない部分や改善しなければならない部分がたくさん出てくるというお話をいただき、だからこそ研究テーマにする必要があると感じた。」

「教育問題はジェンダーの問題と密接に関係していることが分かった。」

「女性がフードバンクを利用することにより、弱みに付け込まれてしまうというデメリットがあることは知らなかった。まちづくりをするために、いかに女性が安心して生活できるかという視点についてもっと勉強する必要があると感じた。」

第22回 学年フィールドワーク 振り返り

- ① 目的 自分たちが得た知見を他者に伝えることができるよう準備をすることを通して、各自の考えを体系的に整理し、設定テーマについて再考する機会とする。
- ② 日時 令和2(2020)年12月12日(土)(1～3限目)
- ③ 内容 領域ごとに、学年フィールドワークで得た知識を共有し、模造紙にまとめる。学年全体で得た情報を共有する。
- ④ 成果 自分たちが得た知見を他者に伝えることができるよう準備をすることを通して、各自の考えを体系的に整理し、設定テーマについて再考する機会とすることができた。

〈振り返りの様子〉



第27・28回 課題研究発表会

- ① 目的 長期にわたり携わってきた課題研究をまとめ、発表することで、どの程度力がついたのかを検証する。
- ② 日時 令和3(2021)年2月2日(火)、2月3日(水) 5～7限目
- ③ 内容 それぞれの研究をA4のポスターにまとめる。その内容を4分程度で発表する。聞き手の生徒、学年の担当教員がルーブリックに沿って評価をする。
- ④ 成果 今年行ってきた研究についてまとめ、発表することができた。ルーブリックによって評価ポイントが明らかになっており、生徒は発表の際に気を付けるべき点について再確認する良い機会にもなった。

第31回 課題研究発表全体会

- ① 目的 代表班はステージ発表をすることで、課題研究発表会よりも質の高い発表をする。また他学年の発表を聞いて、ルーブリックでの評価ができるようにする。
- ② 日時 令和3(2021)年3月3日(水)
- ③ 内容 高1・2年課題研究発表会(本校体育館)
- ④ 成果 2年生の質の高い発表をルーブリックを使って評価することができた。また代表班は、「伝える工夫と意欲」の項目の評価を上げることができた。その他の生徒はポスターセッション発表を行い、質問者に対して適切に回答するなどを行うことができた。

（２）高２「異文化研究の実践」

ア 高１SGH地域課題研究との繋がりとは高２課題研究のねらい

１年生の時には、身近な地域をフィールドに６領域に分かれて班別課題研究を行った。そのねらいは３つある。１つ目は課題研究の進め方を体験的に学ばせ、身に付けさせることである。２つ目はグローバル・リーダーとして欠かせない資質と考える「地域とともに生きるというアイデンティティ」「地域への所属意識」を育てるためである。３つ目は、遠い海外ではなく身近な地域を対象とするため、すべての高校１年生にフィールドワークの機会をつくるのが容易であることである。その学びを通して、生徒は自らの地域の解決が容易でない様々な社会課題に直面していること、そしてそれらの困難な社会課題に解決に取り組んでいる事例があること、またそれらは解決に向けて多様なアプローチで実践されていることを体験的に学ぶことができた。

そして２年時は、１年生だった昨年の経験を基礎に、１年次で研究したテーマについて、それが海外の国・地域ではどのように現れているか、どのような発想で如何なる取り組みがなされているかについて国際比較し、国内外への解決策の提言に結び付けていく研究を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、グループ活動を避け、フィールドワークも行くことができなくなった。アンケート取材などもできなくなり、対応に苦慮した。

今年度に限っては、個人研究とし昨年度研究方法を体験しているので、課題研究を文献調査や、メール、オンラインなどを通じて、非接触型での研究を行っていった。

イ 課題研究の体制について

（ア）研究決定

生徒在籍数・・・１６０名 研究の数・・・１５９件（１名留学中）

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、協働することができず、また教育活動がいつ中断するか分からない状況の中で、個人で研究を行うこととした。２年生１５９名が、個人課題研究として研究に取り組み、６月１日に緊急事態宣言が明け、通常授業が始まった時期に課題研究のスライドを用い、課題研究の意義や有用性、研究方法について確認し新年度の研究体制がスタートした。

SGH事業も５年目を迎え、生徒はチーム研究を進めるにあたり、研究以前に班内の生徒同士の人間関係で悩むことが少なくないということが分かったが、今年度は個人研究のため、その心配は無くなった。しかし本年度は個人個人が研究を行いたい分野を見つけることに苦慮し、研究内容の決定がうまく進まなかった。昨年度の研究を踏襲する、もしくは新たに課題を見つけ研究するという方法をとった。研究の決定の方法は、キーワードマッピングやキーワードロジックツリーなどを用いた。研究を決定後は進め方を明確した。

中間発表を行うことで、課題研究を進めることができた。しかし個人研究なので、１５９個の研究を一つ一つ丁寧に確認できる教員数がなく、生徒１５名程度の研究を１人の教員が担当し、評価することに苦慮した。

（イ）教員による生徒への課題研究指導・かかわり

２学年団の教員（１１名）に、１５９人を１５名程度に分け、担当教員に割り当てた。教員１人あたりに研究が１５個になるので、研究分野が多岐にわたり、不得手の分野を担当する教員もいた。教員の役割は、①各班の毎時間の報告を受けて、研究の進捗状況を掌握すること、②その際に、常識的な範囲で、仮説の妥当性や調査方法の適切性について評価、助言すること、③個人研究方式で研究が可能かどうか、教員は専門外の研究を担当したので、担当者どうして意見交換をして、見識を深めることができた。２学年団の全教員が２年生の研究への関わりや指導・助言を実践することができた。

ウ 高2 課題研究の研究手法の指導

1 単位の学校設定科目「グローバル情報」を使い、特に1 学期に、準教科書を用いて、研究テーマの決定を行っていった。キーワードマッピング・ロジックツリー制作を通じて、個人の興味関心のあるところから、どのような課題があり、提言可能なのかを考えさせた。また1 学期の期末試験においては、教科書前半の範囲からの出題という形で改めて研究の進め方の復習を行うことができた。

2 学期では、(ア) リサーチ・クエスションの絞り方、(イ) 仮説の立て方、(ウ) 仮説の検証法、(エ) 研究対象に応じた社会調査方法(インタビューやアンケート調査法、参与観察法)の選び方等について学んだ。2 学期期末テストにおいては、教科書の後半の範囲から出題という形式で、研究の手法を学ぶことができた。

指導体制としては、HR 担任、「情報」教員の他、宇都宮大学教員1 名がこの科目の非常勤講師として加配されて3 人の教員によるティーム・ティーチング形式で行われた。その中で、宇都宮大学教員から大学の研究者として実際に研究を行っている立場から毎週「グローバル情報」の時間において計画的に指導いただいた。

エ 研究連携先、有識者への連絡方法

(ア) メール・電話連絡

高校2 年生では、フィールドワークも適宜取り入れながら理解を深める予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、フィールドワークの自粛を行った。そのため、個人課題研究で生じた問題や質問はフィールドワークという形式ではなく、メール・電話連絡という方法をとった。授業時間を用い、有識者へのメールの送り方や、電話のかけ方など事細かに指示し、失礼の無い形式を定着させることができた。多くの大学関係者や、官民間問わず企業などが、高校生への対応を好意的にしていた。

(イ) 参与調査

7 月から10 月頃には、新型コロナウイルス感染防止が進み、参与の連絡(ボランティアやワークショップ)が各方面から届き、そこに参加する生徒が出てきた。参与調査で有識者とのネットワークを作り、現在も連絡を取りながら、課題研究を進めている生徒もいる。

(ウ) 文献調査

研究内容として、上記のア、イでもない生徒は、多くの文献を調査した。多くの文献に触れ、そこから導き出される提言や、矛盾、結論、考察も考えさせることができた。

オ 高2 課題研究 実施記録(総合的な学習の時間)

SGH 課題研究は、毎週金曜日7 限目の総合的な学習の時間を使って進めた。本校の授業週数は年間39 週であるが、総学及びグローバル情報の時間を使って年間54 回実施することができた。(一覧については「第2 章-3-(5)」を参照)

高2 課題研究 各班研究テーマ一覧

番号	氏名	課題研究題名(1組)	番号	氏名	課題研究題名(2組)
1	相田 紘夏	食育推進によるフードバンクおよび地域の活性化	1	赤塚 真理	ドイツを参考に佐野市のSDGs⑧解決
2	青木 彩恵	コロナ禍における人と動物の関係の変化	2	安西 涼哉	E-sportsは学生に受けているのか
3	青木 優奈	子どもの貧困問題の解決に向けて	3	内田 小温	家庭系食品ロスをフードドライブで解決
4	秋草 菜々実	偏食改善で健康的な食事と生活を目指す	4	大川 リオ	E-sportsの普及には何が必要か
5	新井 優平	高校生の放課後学習支援への参画	5	大塚 彩奈	栃木県の活性化
6	飯塚 陽菜	児童の放課後の居場所について	6	大西 礼晟	マイナンバーの普及と可能性
7	家富 真広	日本のごみ削減方法	7	大畠 萌花	食物アレルギーの子供が食べられるものを増やすためには
8	五十部 綾乃	佐野市の地域活性化計画	8	岡田 紗也加	ランドバンクと日本の空き家問題
9	岩澤 快	我々の住む町のエンターテインメントによる活性化について	9	岡部 華林	佐野市の核家族世帯のための子育て支援
10	岩地 優	テレワークによるコミュニケーションの向上	10	垣花 優茉	地方のキャッシュレス決済の普及について
11	内田 莉乃杏	安楽死と宗教の関係性	11	加持 舞和	佐野市の中高生の睡眠環境の改善
12	梅田 香穂	アフターコロナにおける日本のインバウンド	12	川上 陽菜乃	技能実習生が地域社会で活躍するには
13	岡田 萌花	広がる教育格差の要因と対策	13	川野 由貴帆	成人年齢の引き下げの効果
14	落合 侑亮	VRを用いた佐野城の復元による地域復興	14	木村 真歩	環境教育を取り組みやすく
15	金子 伸之	聖地巡礼を活用した地域活性化	15	小林 杏珠	フェアトレードの認知度向上
16	川田 有紗	フードバンクやフードドライブの利用率を上げるために	16	小林 桃寧	佐野高校と岩手県釜石市の防災教育について
17	川田 宗志郎	定額給付金が消費動向に与える影響	17	小森谷 聡美	日本のインバウンド観光
18	黒尾 文音	廃校を生かした伝統芸能の普及	18	佐々木 柊	デモ活動への認識について
19	鯉沼 陸	医療従事者のジェンダーバランスについて	19	高橋 蒼衣	音楽の授業をより楽しく感じてもらうには
20	小林 瀬里	イスラム教知識が少ない非ムスリムによるムスリムに対する差別	20	高間 菜由	公立小学校の英語教育の見直し
21	関野 瑞姫	子供のAI勉強法	21	田中 新一郎	地方におけるシェアリングエコノミー
22	高久 花暖	子供の睡眠	22	種谷 星七	コロナ禍の観光業に求められているもの
23	高橋 彩音	若者の睡眠と障害	23	田村 季亜良	佐野市の空き家活用計画
24	津久井 友貴	方言文化の保護と継承	24	田村 璃空	より良い避難所運営へ
25	寺嶋 天音	女性の社会進出と実母による虐待との関係性	25	中村 拓真	小学校教員の英語の取り組み方
26	長竹 真輝	少年犯罪の現状と抑止策	26	兵藤 かほる	放課後教育における高校生ボランティアの役割
27	根本 絆	募金活動が与える心理的影響	27	松嶋 里乃	駅伝の魅力を伝え、世界開催へ
28	長谷川 愛彩	慈善活動におけるメディアの影響	28	松原 唯衣	遊びから得る学び
29	八田 愛李	栃木県における若者の投票率低下の現状と課題	29	武藤 未羽	読書離れを積読で解消する
30	廣瀬 莉羽	日本の音楽療法の現状と課題	30	村山 日菜	育児休業取得率から考えるこれからの社会
31	福島 陽斗	新たな生活様式を取り入れた「さのまる」主体のイベント作り	31	森田 早耶	日本と海外の文化の違い
32	船渡川 実優	日本とアジアの英語教育の違いについて	32	森本 剛斗	ドイツを元に佐野の空き家再生利用
33	矢部 くるみ	大学生に求められる英語力と現状	33	山崎 理紗子	海外文化を用いた小学校英語教育
34	山崎 優	好きな音楽で睡眠の質を改善	34	山野井 瑛音	空き家の増加原因と、その活用法
35	山下 夏生	佐野市、小山市、足利市における個人経営飲食店にもたらすテイクアウト、デリバリー制度の経済効果について	35	山本 朋果	グループ学習の活性化
36	横堀 咲英子	日本の女性格差問題	36	和田 優芽	昆虫食を身近に
37	若菜 利緒	国によってのジェスチャーの意味の違いはなににあるのか	37	渡邊 千尋	男女間における経済格差

番号	氏名	課題研究題名（3組）	番号	氏名	課題研究題名（4組）
1	青木 華瑚	免疫力をあげて病気から身を守る生活リズムを作る	1	青山 怜慈	高校生の睡眠意識向上に関する検討
2	阿久田 キラリ	医療技術者の認知度をあげる	2	五十嵐 羽音	農家レストランで農業を活性化！！
3	阿部 巴弦	高校生に聞く成人年齢引き下げについて	3	生熊 里彩	ボート選手の練習方法
4	荒川 結一郎	アフリカの人口爆発を抑える	4	出井 公人	IPA発音記号を用いた実践的な英語教育
5	飯田 ひかり	CMV感染ハイリスク診断の確立	5	碓氷 敬大	高校生の読書機会増加
6	飯塚 沙奈	飢餓と食品ロスとその解決	6	江部 青飛	レストランメニューの多言語対応化と導入法
7	五十畑 拓実		7	大川 航世	オンライン授業への期待と可能性
8	石田 光輝	Aiを労働力にするために	8	大澤 凜太郎	防災意識の向上とその効果
9	猪瀬 遥大	睡眠と学習の相関	9	大西 真生	子供食堂を中心とする地域交流
10	内田 絃心	佐野市の感染症流行の実態と感染症対策について	10	大山 時生	洋上風力発電の普及
11	内田 侑那	起立性調節障害を持つ子供への理解と行きやすい学校づくり	11	岡部 豪太	再生可能エネルギー導入政策の比較検討
12	大嶋 美聖乃	生活習慣病とストレス	12	尾花 知典	自粛中における生活習慣とストレスの関係性
14	小倉 悠輝	プラスチック削減による気候変動問題の解決	13	柏崎 秀明	睡眠と経済的損失
15	恩田 奈那美	米粉の需要増加	14	亀田 晃聖	ブルーライトが及ぼす人体への影響
16	加藤 真結花	萌えキャラで地域活性化！	15	川俣 蒼生	デジタル教材の普及
17	金井 春樹	義足の汗問題	16	川村 琉晟	小水力発電の普及
18	北岡 真心	歯科医師過剰問題について	17	久保田 晃生	外来魚の食利用
19	古宮 大靖	聖地巡礼による経済効果、町おこし	18	後藤 秋浜	ポイ捨てををするな！
20	今野 綾音	南アフリカ共和国の乳幼児死亡率を減らす	19	酒庭 愛里	米粉の普及
21	佐藤 捺美	医療現場の人手不足を解決するには	20	佐藤 翔馬	スポーツ障害を通しての環境の改善
22	篠崎 伶香	すべての子供たちが大人になれる世界をつくるために	21	佐藤 汰樹	病害虫の天敵を利用した農業の有効性
23	高橋 勇氣	釣りによって外来魚を減らせないか	22	佐山 竜空	異常気象が起こる原因その被害
24	塚原 聖哉	新型コロナウイルスのこれまでと今後	23	高橋 加奈	人身取引被害者の心のケア
25	手島 つかさ	現代の遊びの危険性	24	高橋 希典	マイクロプラスチックに関する意識調査
26	西塚 翔望	シカを有効活用しよう	25	田崎 和寛	海無し県と海洋汚染対策
27	長谷川 まゆみ	こころの悩みと病について	26	知久 拓生	昆虫食の普及
28	林 裕也	ランニングシューズの進化	27	津久井 理子	水害に対する意識の向上
29	春山 彩葉	南アジアの子供の感染症について	28	戸室 琴乃	ホコリの堆積～佐野高校の現状～
30	平渡 和己	快適に住み続けられる都市緑化について	29	中里 光輝	都市開発と鳥類
31	露田 雄大	食品ロスの効率的な方法の模索	30	中島 碧	ニラ消毒液の開発
32	船田 浩希	過剰包装のごみ問題	31	長谷川 爽良	海洋プラスチック削減に向けて
33	細野 俊碧	外来魚魚粉を使用した作物の作成	32	長谷川 羽菜	乳・幼児の新型コロナウイルス感染症対策
34	松浦 はるか	病院内でのQOLを実現するために	33	花里 歌穂	循環型マイバッグで環境汚染を減らす
35	水戸部 蓮	食べ残しをおいしくいただく！！	34	原 悠馬	オンライン診療から考える医療体制の未来
36	緑 仁周	オタク差別について	35	兵藤 みなみ	子供の貧困問題において今私たちができること
37	味村 夏希	漁業系海洋ゴミの対策	36	藤沼 広丞	建築物の再利用に関する課題とその解決策の調査
38	宮本 萌々子	空間デザインで地域活性化	37	船渡川 優衣	ボート選手の食事について
39	本村 円	海洋プラスチック	38	星野 虎乃介	サーマルリサイクルとその問題点
40	森川 綾音	若者の難聴	39	星野 龍乃介	水供給施設導入とその条件
41	山本 蒼	佐野市と栃木市の空き家対策の相違点	40	村井 謙斗	メダカの絶滅危機とその要因
42	渡辺 流空	英語の苦手な子を減らすためには	41	柳田 貴央	無信号横断歩道での車の一時停止率の向上
			42	山本 悠貴	外国人労働者を取り巻く問題点
			43	吉田 春杜	日本に根付く昆虫食文化を
			44	若林 侑汰	野草食の普及に向けて

高2 SGH 課題研究 ポスターセッション 作品成果物

令和3年2月2・3日に、6教室に分かれ、高2生全員のポスターセッションが開催された。
本稿では各教室の優秀者のポスターの掲載をする。

2-1 会場

R2 SGH課題研究 領域 人権・教育・文化
担当教員: 田所先生
栃木県立佐野高等学校 2133 矢部くるみ

大学生に求められる英語力と現状

要旨
大学生に求められる英語力が年々高まる中、実際の英語力は低下している。リベラル教育(大学の授業のレベルに達しないために行う教育)を必要とする学生が存在し、大学の英語学習に意欲が低下している。そこで、英語と大学の教育機関で学習目標の共通認識を持つことで大学の英語学習に意欲を高め、より効果的な英語学習を行う。英語力向上させることができる。

研究背景・目的
英語「グローバル社会に求められる英語力が年々高まる中、実際の英語力は低下している。リベラル教育(大学の授業のレベルに達しないために行う教育)を必要とする学生が存在し、大学の英語学習に意欲が低下している。そこで、英語と大学の教育機関で学習目標の共通認識を持つことで大学の英語学習に意欲を高め、より効果的な英語学習を行う。英語力向上させることができる。」

研究手法: 文献調査
結果: 日本
① 調査内容
① 英語「Speaking and Writing」中心、高校の英語授業と比べて
② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨

選択 3 会場

R2 5G+6G 通信研究 推進教員: 戸田 圭一

デジタル教材の普及

栃木県立佐野高等学校 2415 川原 晋志

背景
日本の教育のデジタル化も進んでいるが、現場で活用しているデジタル教材は、授業や授業、授業と評価の間の関係が密接なものであることが多く、授業の質の向上は、授業の質を向上させるために必要である。

研究背景・目的
R2年度より、日本のデジタル教材は、授業の質を向上させるために必要である。また、授業の質を向上させるために必要である。

研究背景
授業の質を向上させるために必要である。また、授業の質を向上させるために必要である。

予備
授業の質を向上させるために必要である。また、授業の質を向上させるために必要である。

結果
授業の質を向上させるために必要である。また、授業の質を向上させるために必要である。

今後の展望
授業の質を向上させるために必要である。また、授業の質を向上させるために必要である。

選択 4 会場

R2 5G+6G 通信研究 推進教員: 川原 晋志

二重消毒液の開発

栃木県立佐野高等学校 2430 中島 智

研究背景・目的
二重消毒液の開発は、感染症の予防に有効である。また、感染症の予防に有効である。

研究手法
二重消毒液の開発は、感染症の予防に有効である。また、感染症の予防に有効である。

結果
二重消毒液の開発は、感染症の予防に有効である。また、感染症の予防に有効である。

結論・まとめ
二重消毒液の開発は、感染症の予防に有効である。また、感染症の予防に有効である。

ポスターセッション後に代表者を6名決め、3月3日に1・2年合同の成果発表会を体育館で行う。代表者以外もパワーポイントを作成し、成果発表とした。

(3) 高3「キャリアパス探究」

- ア 授業時間 総合的な学習の時間（1単位 毎週木曜日）の授業を中心に行う。
- イ 対象 高校3学年全生徒
- ウ 目標 2年間の「課題研究」について整理し、大学等で継続して追究したい内容について考え、自分の進路、人生に関して考えを深める。
- エ 授業内容
以下のシラバスに基づき、まず2年間取り組んできた、「地域課題研究」、「異文化研究」を中心に各自取り組んだ諸研究についてまとめ、その後、卒業後、大学等で引き続き追究したい内容について考察し、最後に自分の人生、進路に関して「宣言文」を作成した。

課題研究Ⅲ（グローバル発展～キャリアパス探究）シラバス

Stage 1 課題研究（1年地域課題研究・2年異文化研究）を振り返る①～③
 Stage 2 「学びの計画書」の作成、キャリアパスの探究 ①～③
 Stage 3 「シンカ宣言」の作成 ①～③

	日 程	内 容
1	6/4	オリエンテーション①
2	11	オリエンテーション②
3	18	Stage1-1 課題研究（1年地域課題研究・2年異文化研究）を振り返る①
	25	〃 1-2 〃 ②
4	7/2	Stage 1-3 課題研究（1年地域課題研究・2年異文化研究）を振り返る③
5	7/16	Stage 2-1 学びの計画書・キャリアパスの探求①
6	30	〃 2-2 〃 ②
7	9/3	〃 2-3 〃 ③
8	/10	Stage 3-1 シンカ宣言 ①
9	/17	〃 3-2 〃 ②
10	/24	〃 3-3 〃 ③
11	12/17	まとめアンケート

オ 実施状況

- (ア) シート stage1 に基づいて各自 2 年間の課題研究およびその他の研修等についてまとめた。
- (イ) シート stage2 を使って「学びの統合化」を図り、卒業後、大学等での継続して探究したい対象を追究した。
- (ウ) シート stage3 (モデル例) を示して、各自「シンカ宣言」の骨格、或いは日本語版を作成し担当者がチェックした。
- (エ) 「シンカ宣言」を作成、提出。

カ 成果及び反省

3 年次は、1, 2 年次に取り組んできた自分の課題研究を振り返り、SDGs (持続可能な開発目標) の解決に向けて自分の何が生かせるか、どう貢献していきたいか。自分の生き方なり方、キャリアパスを考えることにある。1 月の生徒アンケートでは、佐高の伸ばしたい 6 つの力のうち⑥「グローバル社会に貢献する高い志」が高 1 年次 45.4% → 高 2 年次 64.6% → 高 3 年次に 80.3% と、段階的に大きく伸びている。シンカ宣言の執筆は、SDGs への貢献を踏まえたキャリアパス研究の深まりに効果的であった。

また、将来の学び計画を具体的に明らかにして、高校生活で打ち込んだ課題研究を有効に使いながら AO 入試や推薦入試にチャレンジし、進路実現をする準備が、基本的に 7 月のシンカ宣言の執筆段階で整った。実際、AO・公募制推薦入試の合格数も、国公立大学を例にみると年間数名程度だったのが、一昨年度 (SGH 最初の卒業生) 16 名、昨年度 27 名、今年度 20 名を輩出し、高い水準を保っている。SGH 活動との相関が明らかである。進路実現が目的の探究は本来の探究ではないが、生徒たちの活動が大学入試においても評価された形である。

課題研究Ⅱ (グローバル発展～キャリアパス探求) 第 1 日
Stage1 課題研究 (1 年地域課題研究・2 年異文化研究) 等を振り返る

組 番 氏名			
	1 年 (地域課題研究)	2 年 (異文化研究)	その他 (自由テーマ・自主研修、自主研修、研究留学等)
1. 領域			
2. テーマ			
3. メンバー			
4. 自分の役割 (得意として長けた 所をやりとり経験し たのか)			
5. 課題意識 テーマ設定の理由			
6. 仮説			
7. 方法 (実際にやった こと)			
8. RW			
9. わかったこ と			
10. わからな かったこと			
11. 反省			
12. 苦しかった こと			
13. 工夫点			
14. 得られた こと			
15. その他			
16. フィードバックシート			
1. 思ったより進捗がなかった 2. 進捗がなかった 3. 進捗がなかった 4. 進捗がなかった 5. 進捗がなかった			
地域課題研究・異文化研究	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
自由テーマ・自主研修	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
研究留学	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
異文化理解を深める	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
国際化推進	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5
グローバル化への対応	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5	1-2-3-4-5

課題研究Ⅲ Stage2 「私の学び計画書」へのプレシート (version1)

Q1: 2 年間のどのような研究をしてきましたか。

Q2: その中で継続して行いたいものは何ですか。

Q3: それらどのような大学、学部、先生の元でできそうですか。

理由:

Q4: 志望大学・学部

第 1 志望

理由:

第 2 志望

理由:

《シート stage1》

《シート stage2 - 1》

課題研究Ⅲ Stage2「私の学び計画書」へのプレシート (version2)

Q1：2年間どのような研究をしてきましたが、

Q2：この課題研究を通して学んだことや、活かすことのできる経験は何かありますか、

Q4：希望大学・学部

第1希望
理由：

第2希望
理由：

《シート stage 2 - 2》

これまでの自分と未来のジブン
～佐高生活 & SGH 活動を振り返って～

Stage3 シンカ宣言 記入要項 7/30※

〈シンカとは〉 進化・深化・真価・thinker の路。中高一貫教育校としての目標。

＜シンカ宣言とは＞

①盛り込むべき内容

Stage3で作成するシンカ宣言とは、基本的に Stage2で作成した「私の学び計画書」の要約となります。

①高1、2年時に取り組んだこと（SGH 課題研究内容を重点的に）→②高校時代に身に付けることができた・大きく伸びた力、資質→③深めたい研究テーマ（細かく絞る）→④上級学校・学部学科の志望動機→⑤キャリア設計（10 年後のジブンを想像）の諸要素を必ず盛り込みながらまとめます。

②制限時数

今日は最初に日本語を用いてまとめます。日本語版の制限時数はありません。

③期日

提出できる場合は本日ですが、無理な場合は2学期始業式とします。

④書き方

＜シンカ宣言の骨格＞

①1 年次研究したこと。わかったこと（或いは身につけた能力）

②2 年次研究したこと。わかったこと（或いは身につけた能力）

③2 年間を通してわかったこと（興味を持ったこと、身につけた能力等）

④高校卒業後学びたい（追究したい）こと

⑤将来(社会人として)やりたい（追究したいこと）

＜シンカ宣言の日本語の表現例＞

1 年次自分は～を研究した。それを通して～がわかった（～する能力を養えた）。

2 年次～を研究した。それを通して～がわかった（～する能力を養えた）。

2 年間の研究を通して～がわかった（～に強い関心を持った、～する能力を養えた）。

高校卒業後は、～で～を学びたい。

将来は～をして～したい。

《シート stage 3 - 1》

私の学び計画書（提出用）

3 年 級 生 氏 名

【1】〇×学部（学科）へ進学を希望する理由を書いてください。

【2】大学生活で何を目標にし、どのように学びたいか、具体的に設計してその内容を書いてください。

《シート stage 2 - 3》

Stage3 シンカ宣言

〈シンカとは〉 進化・深化・真価・thinker の路。中高一貫教育校としての目標。

〈盛り込むべき内容〉

Stage3で作成するシンカ宣言とは、基本的に Stage2で作成した「私の学び計画書」の要約となります。①高1、2年時に取り組んだこと（SGH 課題研究内容を重点的に）→②高校時代に身に付けることができた・大きく伸びた力、資質→③深めたい研究テーマ（細かく絞る）→④上級学校・学部学科の志望動機→⑤キャリア設計（10 年後のジブンを想像）の諸要素を必ず盛り込みながらまとめます。

《シート stage 3 - 2》

5 SGH クラブ海外班の活動

(1) SGH クラブ研究班 (海外班)

ア 活動内容の概要

海外フィールドワーク (マレーシア連邦サラワク州・クチン。自然保護の取組み、語学教育の方法、民族文化の日本との違いについて、現地でのインタビューや大学での交流を通して調査予定) を中止した。その代替活動として、今年度は、海外と on-line でのような協働学習が実施可能かを追究し、年度を通して試行錯誤しながら実施した。

イ 主な海外連携先

- (ア) St. Teresa's National Secondary School (以下セントテレサ校と略す)
(Jalan Tun Abang Haji Openg Kuching, Sarawak, 93000, Malaysia)
- (イ) スリランカ・ヌワラエリア (Nuwala Eliya) 県の小学校 (宇都宮大学国際学部栗原研究室の協力)

ウ SGH クラブ海外班の研究を助言・指導いただいた外部講師の先生方

- (ア) 宇都宮大学国際学部 松金 公正 教授 (本校 SGH 統括アドバイザー)
- (イ) 東京海洋大学 小松 俊明 教授 (本校 SGH 統括アドバイザー)
- (ウ) 宇都宮大学農学部 大久保 達弘 教授
- (エ) 宇都宮大学国際学部 栗原 俊輔 准教授
- (オ) 群馬大学共同教育学部 濱田 秀行 大学院教授
- (カ) 白鷗大学教育学部 大木 陸 教授
- (キ) セントテレサ校の先生方

エ 栃木県立佐野高等学校 SGH クラブ海外班への参加者及び生徒数

相田 紘夏 (2 年)	出井 公人 (2 年)	内田 小温 (2 年)
大嶋美聖乃 (2 年)	後藤李秋浜 (2 年)	原 悠馬 (2 年)
山本 悠貴 (2 年)	飯塚 莉子 (1 年)	磯田 新太 (1 年)
影山 結麻 (1 年)	岸 愛梨 (1 年)	小松崎寛人 (1 年)
関根 圭汰 (1 年)	長島 咲空 (1 年)	林 美優 (1 年)
三田 彩花 (1 年)	山崎 彩加 (1 年)	横塚 功樹 (1 年)
(18 名 2 年生 7 名 1 年生 11 名)		

オ 活動実績・成果

(ア) 概要

確かに生徒は、海外フィールドワークは実施できなかった。しかし、海外の高校生等と生徒同士がどどんりリモートでディスカッションするようになった自主性を、下記の通り発揮してくれた。

その研究成果は、以下のように、コロナ禍の中でも学校外の第三者の評価を得る機会を、いくつか実現することができた。

- ① 本校と他校との研究成果合同発表会を開催（オンライン開催）
 - ② 他のSGH校主催の研究成果発表会に参加（オンライン参加）
 - ③ 栃木県主催の高校生課題研究発表会に参加（オンライン参加）
 - ④ 文部科学省主催の高校生フォーラムに参加（オンライン参加）
 - ⑤ WWL×SGH探究甲子園に応募、参加（オンライン出場予定）
 - ⑥ 各種学会のU-18部門に応募、参加（オンライン出場予定）
- 詳細は次の（イ）に示す通りである。

（イ）SGHクラブ海外班の活動実績（太字は学校外部への成果発表会）

- 5月19日（火）セントテレサ校とweb会議
- 6月03日（水）宇都宮大学農学部教授大久保達弘氏によるウェビナー1回目
- 6月16日（火）宇都宮大学国際学部准教授栗原俊輔研究室とオンライン交流
- 6月17日（水）宇都宮大学農学部教授大久保達弘氏によるウェビナー2回目
- 7月14日（火）スリランカ・ヌワラエリヤ県の小学生とオンライン交流1回目
- 7月17日（金）セントテレサ校と協働研究開始 3×3を5チーム
- 7月20日（月）東京海洋大学教授小松俊明氏によるウェビナー
- 7月29日（水）アジア開発銀行職員中根誠人氏来校。講演・質疑応答
- 8月04日（火）JICA つくば訪問 柳詰ゆう紀氏の講演・質疑応答
- 9月09日（水）リセケネディNY校元校長石塚義昭氏による講演・質疑応答
- 9月18日（金）スリランカ・ヌワラエリヤ県の小学生とオンライン交流2回目
- 9月19日（土）ヴェトナム・FPT高校とオンライン交流
- 11月06日（金）**SGHクラブ海外班・中間発表会**
- 11月14日（土）**第3回全国高校生SRサミット FOCUS**（主催：立命館宇治中
～11月15日（日） 等高等学校）
- 11月19日（月）**とちぎ高校生課題研究等発表会**
- 12月10日（木）**セントテレサ校・佐野高校合同研究発表会**
～12月11日（金）
- 12月20日（日）**2020年度 全国高校生フォーラム**（主催：文部科学省・筑波大学）
- 2月13日（土）**第3回全国高校生SRサミット AFTER FOCUS**
- 3月21日（日）**日本コンピュータ利用教育学会(CIEC)春季カンファレンス発表**
- 3月21日（日）**第3回 WWL×SGH 探究甲子園日本語プレゼンテーション部門出場**

以上の行事以外にも、生徒同士あるいは宇都宮大学の大学生など外部の方々と、生徒は週1～2回のディスカッションを定期的、自主的にこなしてきた。

（ウ）活動内容紹介（紙数の都合により抜粋を紹介）

- ① スリランカ・ヌワラエリヤ県の小学生児童をオンラインで教育支援

内容 宇都宮大学国際学部栗原俊輔研究室が取り組んでいるJICA草の根支援事業の一環である事業に、本校生徒も参加させていただいて取り組んでいる。同国の紅茶プランテーション居住の子どもたち（日本の年長組、小学1年生対象）に、高校生がオンラインで教育支援を行う事業である。現在は、子どもの身の回りで手に入る材料を使って遊具、教具を作る動画を英語で作って配信する活動を始めている。月1回の活動を目指としている（コロナの現地事情で難しかった）。



- ② 独立行政法人国際協力開発機構筑波国際センター（通称 JICA つくば）訪問
 期日 令和2(2020)年8月4日(火)
 内容 マレーシア海外フィールドワークの代替として、本センターでマレーシアに派遣された柳詰ゆう紀氏の講演を拝聴し、質疑応答を行った。併せて国際ワークショップも行い、マレーシアの高校生との協働研究に生かすことを目的に実施した。

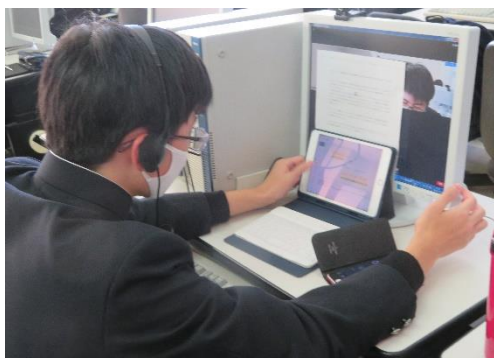


- ③ ヴェトナムの私立FPT高校とオンライン・ディスカッション
 期日 令和2(2020)年9月19日(土)
 内容 ヴェトナムのIT企業FPTが2013年に設立したFPT高校とオンラインで即興型ディスカッション、提言、プレゼンを英語で行い、グローバルな社会課題に対する理解を深めた。



- ④ 立命館宇治中等・高等学校主催第3回全国高校生SRサミットFOCUS
 期日 令和2(2020)年11月14(土)、15日(日)

内容 メッセージアプリであるハングアウトを用いて、全国の高校生とチームを組み、間にメンターの方も入って、リーダーの生徒が取り組んでいる研究を深め、発表するという活動であった。自分たちの研究に全国の高校生から貴重なアイデアが得られ、メンターからの助言も頂いて、今後への研究の励みになった。



⑤ セントテレサ校・佐野高校合同研究発表会

期日 令和2(2020)年12月10日(木)、11日(金)

方法 画面对話アプリ Zoom を用いてオンラインで実施した。セントテレサ校生徒3名と本校生徒3名の国際協働チームを5組作り、7月以降各チームごとに研究をオンラインで深めてきた。11月6日(金)に同じくオンラインで中間発表会を実施した後、この日に本発表会を実施した。

講評 各チームごとに、宇都宮大学国際学部の松金公正教授、東京海洋大学の小松俊明教授から、質疑応答や講評・助言をいただいた。



⑦ 第3回 WWL×SGH 探究甲子園日本語プレゼンテーション部門出場

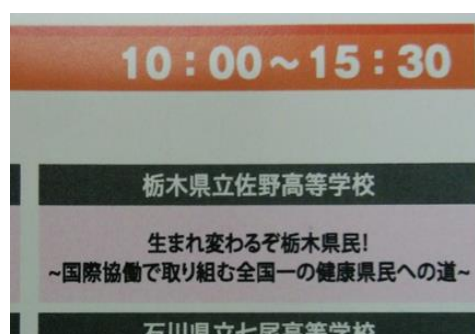
出場生徒 関根 圭汰(1年)

小松崎寛人(1年)

横塚 功樹(1年)

期日 令和3(2021)年3月21日(日)

内容 セントテレサ校との協働研究を応募したところ、出場できることになった。右写真のタイトルで研究を重ね、上記の期日に発表する予定である。



⑧ 日本コンピュータ利用教育学会(CIEC)春季カンファレンス論文発表

出場生徒 山崎 彩加(1年) 飯塚 莉子(1年) 岸 愛梨(1年)

期日 令和3(2021)年3月21日(日)

内容 この班もセントテレサ校との共同研究を発展させ、上記学会に応募したところ、論文審査が通って上記期日に発表することが決まった。

(2) 研究班（国内）

ア 概要

新型コロナウイルスの流行により、活動内容は当初の計画を大きく変更することを余儀なくされた。すべて感染対策を厳重に講じた上での活動となった。過去の国内班の活動実績を踏まえた上で、フィールドワーク（以下 FW）の実施に準ずる研究成果を挙げるべく、主にオンラインによる専門家の講座の受講や、国内外の高校生や活動家との交流活動を実施した。また、昨年度までの活動の継続研究として、中間発表は熊本県立水俣高等学校と合同で行い、最終発表では福島第一原発の廃炉の専門家である滝川氏の講演と生徒たちの発表への講評を氏にお願いすることとなった。さらに、国内の問題解決策の考案から海外へ提案すべく、本校 OB の上岡裕氏によるマダガスカル支援についての講演、田中正造型のグローバルリーダーを目指す本校 SGH として継続的に探求していく姿勢を学んだ。

イ 協力者・協力機関

上岡 裕氏（NPO 法人エコロジーオンライン理事長・佐野高等学校 OB）
佐野市役所
熊本県立水俣高等学校

ウ オンライン交流前の活動

6 月にメンバー（1 年生 5 名・2 年生 8 名）を確定して以来、毎週金曜日にミーティングを実施し、各グループの研究分野について理解を深めてきたが、専門家の声を聴きたいという気運が高まり、6 月 3 日に海外班（マレーシア班）と合同で宇都宮大学の久保教授による講座を行った。

エ マダガスカルとのオンラインによる交流活動

（ア） 実施時期 令和 2 年（2020）年 6 月～令和 3（2021）年 3 月・・・現地との交流活動

（イ） 研究動機

各グループのテーマ（海洋プラスチックゴミ問題、原子力発電問題、防災・減災）で研究を進め問題解決に取り組む内に、海外に目を向け同様の問題を抱える発展途上国に貢献できないかと考えるようになった。主にアジア・アフリカについて調べ始めたとき、佐野高等学校の OB でマダガスカル支援活動をしている、NPO 法人エコロジーオンライン理事長 上岡 裕氏の協力を得られることとなった。

（ウ） 研究方法

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、厳重な感染対策を講じた活動となった。主な研究方法は、文献を集め各自の役割分担を決めて研究を進め、FW の代替措置として、オンラインによる専門家のアドバイスをいただきながら修正や微調整をしながら研究を深めるという方法をとった。

（エ） 取り組みへの参加者及び人数

SGH クラブ・研究班（1・2 年 13 名）

(オ) 活動内容（要約）

① 文献と先行研究の調査

まず各自で研究したいテーマを決定し、文献やインターネット等で個人研究を行った。その後近いテーマの部員同士で3～5人程度のグループを組み、テーマの再設定そして発表へ向けての先行研究の収集・調査を行った。



② 専門家によるオンライン講座の実施

今年度は以下の日程で有識者らによる講義を聴講した。

・令和2年6月19日（金）

NP0 法人エコロジーオンライン代表上岡裕先生による講義
佐野から全国へ、そして世界へと情報発信していく方法および田中正造型グローバルリーダー育成について学んだ。

・令和2年7月13日（月）

上岡裕先生およびマダガスカルで支援活動されている浅川日出男先生による講義

初めてのアフリカ・マダガスカルからのオンライン講座であった。国内研究班・フランス語班の生徒約25名が参加して、マダガスカルの現状と日本の支援活動についてお二人からレクチャーを受け、活発に質問した。

・令和2年7月29日（水）

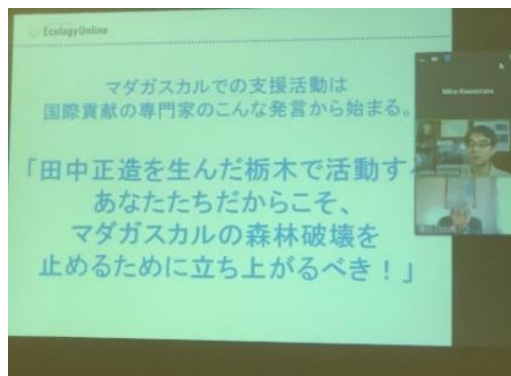
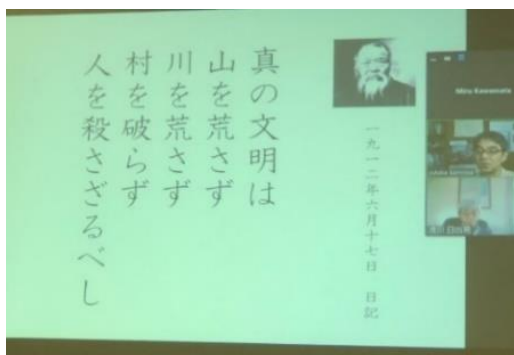
アジア開発銀行の中根誠人さんによる講座

アジア銀行とはどんな組織であるか、ご自身の担当国（モルディブ）ではどんなことを実際に行っているのかなどをお話いただいた。また、国際機関で働く方法等中根さんの貴重な実体験を伺うことができた。

・令和2年9月18日（金）

上岡裕先生および浅川日出男先生による講義

上岡先生から、これまでのマダガスカルにおける支援活動について郷土の偉人・田中正造翁やSDGsと関連づけながら興味深いお話をいただいた。また浅川先生からは、現在のマダガスカルにおける新型コロナウイルスの感染状況や、今後の現地の高校生との交流の方法についても知ることができた。



③ アドバイザー・コメンテーターからのフィードバック

今年度は佐野高等学校OBの上岡裕先生をはじめ多くの専門家の方々と交流する機会を持つことができた。対面では無く全てオンラインでの開催であったものの、滞りなくやり取りもできた。生徒達は代替エネルギーやマダガスカルの災害等今後の研究に生かすことのできる有意義なアドバイスを得ることができ、研究の視野を広げることができた。



④ FW に代わるマダガスカルとのオンラインでの交流

令和2年9月18日(金)図書室において、SGH クラブ国内研究班・フランス語班 20 名が、本校OBでNPO 法人エコロジーオンライン理事長の上岡 裕先生、同法人マダガスカル事務所代表の浅川 日出男先生から、マダガスカルに関するオンライン講座を受講した。マダガスカルのエネルギー問題や災害ゴミ等違った視点からのお話をいただけたようで各自の課題研究の発展へと繋がる足がかりとなった。



(カ) 成果発表

① 中間発表（熊本県立水俣高等学校との合同発表）

令和2年12月18日（金）本校英語演習室にて本校国内研究班と熊本県立水俣高校でオンラインによる合同中間発表会を開催した。コロナ禍のため、本年度はオンラインによる発表会となったが、無事実施することができた。アドバイザーとして宇都宮大学国際学部教授の松金公正先生、水俣環境アカデミア所長の古賀実先生と栃木県教育委員会の吉川知宏先生に参加していただいた。生徒達にとって学期末に行われる最終発表に向けての貴重な機会となった。

② 最終発表（原子力損害賠償・廃炉等支援機構の滝川氏の講演と助言）

今年度中に福島第一原発の廃炉の専門家である滝川氏の講演と生徒たちの発表への講評を頂いた。

(キ) 成果と課題

成果：関連機関（人物）との連携およびオンライン交流の可能性の発見

国内外でのコロナウイルスの蔓延により実際に現地を訪問する機会は無かったが、オンラインでも十分に交流可能であるということが分かった。またオンラインの最大の利点である現地への移動時間の短縮や費用の節減等も身をもって感じられ、今後の新たな交流の方向性を見いだすことができた。今年度は現地でのフィールドワークを実施することはできないということで先行研究の収集・調査を元にした発表が主であったが、専門家の方々や研究分野に関連した組織の方々と交流することによりある程度は形となった研究を発表することができた。

課題：研究の深化

コロナウイルス流行による臨時休校や学校開始後の校外活動の制限等も重なり、先行研究の収集・調査を元にした発表が主であったため満足いくほど研究を進めることができなかった。ただ前述したようにオンライン交流などもっと改善の余地が見られるので新たな研究方法の1つとして積極的に取り入れていきたい。フィールドワークに関しても次年度以降再検討できればと考えている。

(ク) 事後活動（対外発信）

① 避難所運営シミュレーション

台風19号で甚大な被害に見舞われ、実際に避難所が開設された経緯もふまえて、静岡県が開発したHUGと呼ばれる避難所運営ゲームを活動の一環として行った。この体験をもとに次年度、本校教職員とシミュレーションを共有する機会を企画、実施していく予定である。



(3) ディベート班

中学生

ア 第10回全国中学生英語ディベート大会

- ① 日時 令和2(2020)年11月22日(日)
- ② 会場 感染症予防のためオンライン試合による実施
論題 'All secondary schools in Japan should abolish school uniforms.'
- ③ 成果 4敗1勝



毎年11月に行われる全国中学生英語ディベート大会出場に向けて中3生が夏休みから活動を開始していたが、今年度は9月のスタートとなり、放課後の短い時間に練習を重ねた。もともと意欲のある生徒たちであることや、高校英語ディベート部の部員たちが何度となく後輩の面倒を見たり、試合の相手になったりしてくれたおかげで、中学生たちのディベートは目覚ましい上達を見せた。

新型コロナウイルス感染拡大により、残念ながら大会はオンライン上で行われた。練習期間の短さもあってか反省点を残す結果となったものの、中学生の時に英語ディベート大会に参加しその面白さを知った生徒たちが、高校でさらに英語力に磨きをかけ活躍しているのは、こうした中高の連携が大きいことを改めて実感している。また、高校英語ディベート部顧問の先生にも何度となくお世話になり、そこから他校とのオンライン練習試合を行う機会にも恵まれ、制限のある環境の中でも新たな取組ができることを発見することができた。

【早期入部した中学生の感想】

新型コロナウイルスの影響下であっても、私は英語ディベートを通してさまざまなことを学べたと思います。11月に行われた大会は、私たちにとって最初の大きな活動となり、そのための準備や練習などに励んでできました。初めのうちは「本番までに試合で英語を話せるレベルになるのだろうか。」と不安ばかりでしたが、仲間の部員や先輩方との練習を積み、大分上達したと思います。また、自分の視野を広げることもできました。大会の結果は力及ばずでしたが努力の成果を発揮できたと思います。大会後も、先輩方の練習に参加して活動が続いています。先輩方のレベルはとても高く、私もいつかこんな風になれるよう、日々努力を重ねていきたいと思っています。

この部に入ると、まず英語の勉強が楽しくなる。最初は、英語の勉強が苦しかったけど、部員や先輩方からアドバイスをもらって、少しずつ英語の勉強が楽しくなってきた。特に、ディベートの練習が楽しくて、毎回の練習が成長のチャンスだと感じている。先輩方のレベルは高く、自分ももっと頑張りたい。英語の勉強だけでなく、ディベートの練習を通して、コミュニケーション能力も向上している。これからも、先輩方から学びたいし、自分も先輩方として活躍したい。英語の勉強は、これからも続けていきたい。ディベートの練習も、これからも続けていきたい。先輩方、これからもよろしくお願いします。

私は元々日本語ディベートをやっていて、高校でも続けていきたいと思い、英語ディベート部に早期入部しました。初めはただ「ディベートを楽しみたい。」という思いだけでしたが、英語ディベートをやっているうちに、英語力、特にアドリブの力が急激に向上していくのが実感できました。今では、私の英語へのモチベーションにもなっています。

また、私には目標としている人たちがいます。それは、英語ディベート部の先輩方です。先輩方は大会で素晴らしい成果を残し、私も先輩方の練習に参加してそのレベルの高さを目の当たりにしました。先輩方のように、議論の内容をしっかりと理解し、堂々と意見が述べられるように、リスニング等の勉強をより頑張りたいと思いました。

僕が英語ディベート部早期入部と英語ディベート大会を通しての感想は、どちらも同様にレベルが高いということです。佐高英語ディベート部は全国5位を達成したほどの強豪チームであり、そこで行う先輩方とのディベートはとてもレベルが高く、ついていくので必死でしたが、結果的に自分自身の英語力の向上につながったと思います。大会では、東京の上位入賞常連校、有名進学校が多く参加していました。その中で自分たちの実力不足を思い知らされました。しかし、この大会での悔しい思いをバネに、今後もっと知識を身につけ、ディベート強豪校と対等に闘うことのできる先輩方のようになりたいです。

イ 日本語ディベート

第24回関東甲信越地区中学・高校秋季ディベート大会

令和2(2020)年11月22日(日) オンラインで開催

結果 総合13位(20チーム中)



日本語教室ディベートを開始して4年目となった。今年度は3年生3名、2年生4名、1年生17名と多くの生徒が入部を希望してくれた。特に1年生がディベートに興味を持って参加してくれたことで、校内戦を充実させることができた。しかし、今年度はコロナ禍ということもあり、春季大会とディベート甲子園が中止となり、生徒たちがディベートを行う場がなかった。

その中で、唯一行われたのがこの秋季大会である。この大会は2年生にとってはデビュー戦となった。初めての戦いで、関東、全国レベルの学校と対戦しながらあきらめそうになるような場面もあったが、チームの力でAチームは1勝することができた。Bチームも1年生チームながら善戦し、貴重な経験をすることができた。

3年生の指導の下、自分たちから考え工夫することで、少しずつ成長できているようである。次年度はどのような形になるか分からないが、引き続き良い伝統を受け継ぎ、ディベート活動を盛り上げたい。

参加した生徒から

- ・今年度は大会がなく、残念な気持ちでいたが、やっとできて良かったです。自分たちとレベルの違う相手と試合をして落ち込むこともありましたが、学ぶことが多かったです。次の大会もがんばりたいです。
- ・初めてディベートをやってみて、分からないことばかりでしたが、先輩達が優しく教えてくれて少しずつできるようになりました。これからも学んでいきたいです。

高校生

ア 大会名 令和2年度栃木県英語ディベート春季大会
→新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

イ 大会名 令和2年度佐野高校 SGH 杯南部地区英語ディベート大会
→新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

ウ 大会名 文部科学省後援 PDA 全国高校 即興型英語ディベート合宿・大会 2020

- ① 日時 令和2(2020)年8月8日(土)、9日(日)
- ② 会場 オンラインでの実施 (Zoom)
- ③ 成果 個人 Best POI 賞 (2名)



エ 第12回 D-1 英語ディベート選手権大会

兼第15回 全国高校生英語ディベート大会栃木県予選大会

- ① 日時 令和2(2020)年11月3日(火)
- ② 会場 栃木県立宇都宮高等学校
- ③ 成果 Aリーグ 学校別 3位
Aリーグ チーム別 5位 佐野 A / 6位 佐野 B
Bリーグ チーム別 4位 佐野 D / 5位 佐野 C
Excellent Debater 賞 (1名)



オ 大会名 文部科学省後援 第6回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会

① 日時 令和2(2020)年12月19日(土)、20日(日)

② 会場 オンラインでの実施 (zoom)

③ 成果 64 チーム中 5 位

個人 Best Debater 賞 (1 名)

地方予選のない大会とはいえ、全国大会での5位入賞という創部以来初の快挙を成し遂げた。また、Best Debater 賞は全国で8名の生徒しか選ばれない賞であり、大変名誉ある賞を受賞することができた。



カ 大会名 第15回全国高校生英語ディベート大会 Online

① 日時 令和2(2020)年12月26(土)、27(日)

② 会場 オンラインでの実施 (Zoom)

③ 成果 64 チーム中 5 位

ディベート班が県大会を突破し「全国高校生英語ディベート大会」に出場するのは創部以来初であり、全国大会初出場での5位入賞は、大会史上異例の快挙となった。



キ 大会名 第10回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯栃木県大会

① 日時 令和3(2021)年1月31(日)日

② 会場 オンラインでの実施 (Zoom)

③ 成果 優勝 佐野 B

第5位 佐野 A

個人 第7位、第10位

(4) フランス語班

ア はじめに

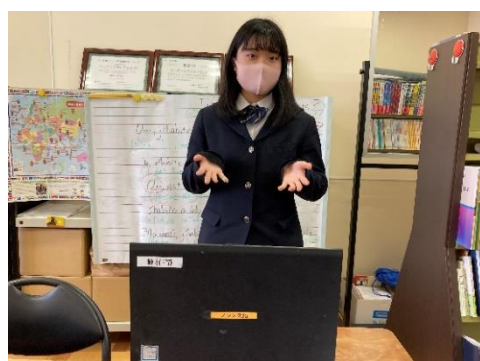
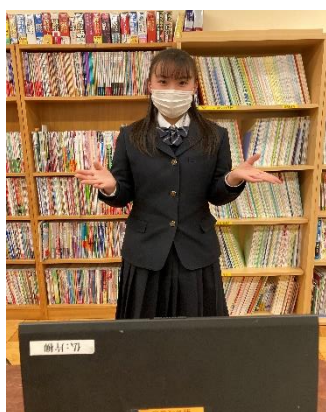
本年度のSGHクラブ フランス語班の活動は、新型コロナウイルスの流行によりコンクールの中
止など活動が制限される中、オンラインによる国内外の講座の実施や大会参加など、すべて感染
対策を講じての活動となった。また実用フランス語検定取得に向けて、検定対策の問題演習を定
期的に実施した。昨年度はフランス語班部員が SGH クラブ海外研究班と合同でマレーシアフィ
ールドワークに参加したが、本年度は SGH クラブ国内研究班と合同で、マダガスカル(フランス語
圏)とのオンライン交流を行い、フランス語を実際に使う機会を得た。SGH クラブフランス語班の
今年度実施した活動は以下の通りである。

イ 活動内容

(ア) フランス語講座・・・「仏検対策5級問題集(白水社)」、「ふらんす-夏期特別号(白水社)」を
使用して、主にフランス語検定5級対策を行なった。6名受験し5名が合格した。



(イ) 第9回 東日本高校生フランス語暗唱コンクールに出場・・・本年度はビデオ審査による春季
大会(スピーチ・文学作品の暗唱大会)に2名出場した。



(ウ) 国内研究班と合同で、マダガスカル(フランス語圏)支援についてのオンライン講座を受講
し、一部フランス語を使って現地の人たちと交流した。



ウ 本年度の反省点と次年度の課題

- 東日本高校生フランス語コンクールは、ビデオ審査による春季大会(2月)1回のみの開催だった。本校からは2名の生徒が出場した。次年度は、このコンクールに加えて、大学や学会主催のフランス語大会にも挑戦させ、さらに上位入賞を果たしたい。
- 本年度は叶わなかったが、次年度は佐野市内外の国際交流団体のイベントや留学生との交流活動に可能な限り多くの生徒の参加を促し、実際にフランス語圏出身者を含めた様々な国籍の在日外国人と交流させたい。
- 次年度も研究班と合同で継続研究を行い、校内外での研究発表会ではフランス語班の生徒たちには、フランス語と英語によるプレゼンテーションを行わせたい。



6 海外グローバル研修 (中止)

7 授業のシンカ

(1) C T P (Critical Thinking Program、1 単位)

①中学校での実施内容の概要 (T.T.授業)

中学 1 年：国語科と英語科（日本語プレゼンテーション・日本語ディベート）

中学 2 年：技術科と英語科（日本語ディベート・英語プレゼンテーション）

中学 3 年：英語科教諭 (JTE と ALT 英語ディベート)

②目的・中学校の学習で培った 4 技能（聞く、話す、読む、書く）や情報活用能力をもとに、論理的・批判的に考え、それを英語により相手に伝える力を育成する。また、中学校においても、Critical Thinking（批判的思考）とは何かを指導する場面を設定し、Critical Thinking が必要となる課題に取り組むことを通して、Critical Thinking を身に付けさせる。

月	中学 1 年	中学 2 年	中学 3 年
主な学習内容	①「SDGs 研究」調べ学習と pp によるまとめ ②日本語ディベートの準備と実践	①日本語ディベート ②英語版アンケート調査作成・集計・分析・発表	○英語ディベートの導入から実践
4	休業中のため授業なし		
5	休業中のため授業なし		
6	・ SDGs について知ろう 「持続可能な社会にするために私たちにできることは何か（環境）」調べ学習を実施	・ 日本語ディベートガイダンス ・ 論題「日本は救急車の利用を有料化すべきである。是か否か。」についての立論・反駁の作成	・ 英語ディベート① Motion: “Traveling abroad is better than domestic travel as a school trip.” ・ 立論、反駁の作成 ・ 根拠資料の収集 ・ 英文の修正と読み練習 ・ 役割を固定して 3 試合実施
7	・ 発表の準備 (PP)、原稿作成を実施 旭城祭にて発表	・ 同テーマについての資料収集・原稿づくり	
8	・ 日本語ディベートについて知り、簡単なテーマで実施 ・ 学年ディベート大会準備	・ 同テーマについての日本語ディベート（試合）	・ 英語ディベート② Motion: “Studying on the Internet is better than studying at traditional schools.” ・ 立論、反駁の作成 ・ 根拠資料の収集 ・ 英文の修正と読み練習 ・ 役割を試合ごとに替えながら 3 試合実施
9			
10			
11	「日本は全ての学校の宿題を廃止すべきである、是か否か」 ・ 学年ディベート大会	・ 同テーマについての日本語ディベート（代表試合・ジャッジ）	・ 英語ディベート③ Motion: “Giving chocolates should be banned on the St. Valentine’s Day.” ・ 立論、反駁の作成 ・ 根拠資料の収集 ・ 英文の修正と読み練習 ・ 役割を試合ごとに替えながら 2 試合実施。
12	・ 地域研究 PP 作成（総合での発表）	・ アンケート調査及び Power Point を用いての結果集計・分析・英語プレゼンテーション	
1	・ 日本語ディベート 「日本はすべての学校の入学を 9 月にすべきである、是か否か」 ・ 学年ディベート大会		
2			
3			

②高校1年での実施内容

(国語、数学、地歴公民、理科の教員と英語の教員による教科横断的 TT による授業)

→ ・高1のCTPは、以下の3つのアプローチの混合アプローチで実施する。

①汎用 (ジェネラル) アプローチ: 科目を越えた批判的思考スキルなどを明示的に教える。

→教科書「誰でもわかるクリティカルシンキング それってホント？」

帝京大学法学部 准教授 若山 昇先生

②導入(インフュージョン)アプローチ: 各教科の教育において批判的思考スキルなどを明示的に教える。

③没入(イマージョン) アプローチ: 学習者は教科内容に深く没入することを通して、批判的思考スキルを気づきによって獲得する。

- ・木曜日の6限に4クラス同時展開で実施。授業の内容によっては、7限目の総合的な学習の時間と連動し、2時間連続で実施する。
- ・各クラスは、英語の教員+他教科の教員というTTで担当する。各教科の担当が、それぞれの特性を活かしたCritical Thinkingを活用する教材を開発する。それを4クラスの担当者全員が共有し、同時展開で実施する。授業方法は、すべてグループでのアクティブラーニングを行う。

高1のCTPの内容

月	アプローチの仕方	実施内容
6	ジェネラル	(1) クリティカルシンキングとは? 合い言葉はクリシン! ① 日常のクリティカルシンキング ② SGHのメリット・デメリットを考える
7	インフュージョン	(2) 各教科に関連したCritical Thinking ① 公民でのクリシン ② 国語でのクリシン ③ 理科でのクリシン ④ 数学でのクリシン
9	イマージョン	(3) 日本語によるディベート活動 9/10(木) 全体説明会 9/17(木) 2年生によるモデルディベート 9/24(木) 英語プレゼンテーションコンテスト
10		10/15(木) 第1回ディベート 論題: 「告白は直接会ってするよりも、SNSを通してすべきである」

1 1		10/22(木)第2回ディベート 論題：「日本は再生可能エネルギーの比率を増やすべきである」(理科的要素を含む) 10/29(木)第3回ディベート 論題：「選挙権を行使しない者に罰金を課すべきである」(地歴・公民的要素を含む) 11/5(木)第4回ディベート 論題：「高校国語の授業では、小説よりも評論を重視すべきである」(国語的要素を含む) 11/12(木)第5回ディベート 論題：「消費税を増税すべきである」(地歴・公民的要素を含む)
1 2 ～1	検証	(4)Critical Thinkingがどれだけ身に付いたか 12/17(木) ①GPSアカデミックの受験* ①Critical ThinkingのCBT受験*
	イマージョン	(5)英語によるプレゼンテーション活動 1/21(木) 概要説明(グループ分け) 1/28(木) プレゼンテーション準備

*Critical Thinking がどれだけ身に付いたかについては、若山昇先生他が開発したコンピュータによる試験(CBT)を生徒が受験し客観的な検証を行った。

(2) 学校設定科目「グローバル情報」

(高1で1単位→高2で1単位継続履修し、計2単位となる)

使用教科書「高校社会と情報(新訂版)」(実教出版)

<高校1年>

月	実施内容
6	・オリエンテーション ・第2章「コミュニケーション」 →ネットワークを活用したコミュニケーション等について学ぶ。 ・プレゼン演習①：パワーポイントを用いて「自己紹介」を行う。 (プレゼンの方法を学ぶ) →グループ内で発表 〈ルーブリックで評価〉
7	・第5章「問題解決」 →インターネットを活用した情報収集の仕方を学ぶ。
9	・プレゼン演習②：興味・関心のある大学について情報収集し、パワーポイントで「大学レポート」としてまとめる。(効果的な発表の演習) →グループ内で発表後、代表者を選出し、全体で発表(クラス内で情報共有) 〈ルーブリックで評価〉
10	
11	・表計算演習：情報収集したデータの特性を調べ、それを表やグラフ化する方法を学ぶ。→パワーポイント作成時に利用
12	
1	・プレゼン演習③：課題研究のポスターをパワーポイントで作成し、発表する。(効果的な発表の演習) →クラス内で発表 〈ルーブリックで評価〉
2	
3	

- ・グローバル情報では、課題研究に必要な情報収集・データの加工やプレゼンテーションの演習などを中心に行う。その際、演習などの評価はすべてルーブリックを活用した。
- ・また、グループでのプロジェクト学習などを通して、ネット社会の課題等について自ら学び伝えるとともに、課題研究でのグループワークの質を高めることなどもねらいとした。

< 高校 2 年 >

- ① 1 学期 準教科書として岡本尚也著『課題研究メソッド よりよい探究活動のために』（啓林館）を用いて、第 1 章「課題研究の概要」と第 2 章「リサーチ・クエスチョンの設定と仮説を立てるまで」、を学ばせた。その理解度、定着度を、本教科書の前半部分を 1 学期末試験に高校教員が作成して測り評価した。その結果、学年平均が極めて高く（平均 79 点）、大変有効であったと感じる。



- ② 2 学期 同書の第 3 章「研究手法を学び、計画書を作成しよう」、第 4 章「結果をまとめ、考察する」、第 5 章「研究内容をまとめ、発表する」に従って、研究要綱の作成手順や論文の基本的な構成、英文要綱作成のルール、プレゼンテーションの技法、ポスター発表の仕方・工夫を履修した。また、今年度は海外グローバル研修（修学旅行）が中止になったため、海外との交流ができなくなった。

2 学期期末試験では、教科書の後半部分を定期考査として作成し、研究の手法の確認を行った。さらに、先行研究を行っている学校のポスターを掲載し、足りない部分や優れている部分の意見を述べさせた。また、自分が行ってきた課題研究についての説明も求める論述問題も追加し、その結果、ほぼ全ての生徒が説明を具体的に行うことができた。

- ③ 3 学期 個人課題研究をポスターとしてまとめ、2 月 2・3 日に 6 会場で発表することができた。その後発表内容をパワーポイントでまとめ、研究のまとめとした。新型コロナウイルスの影響で、思うように研究が進まず、苦勞をした 1 年間であったが、悩み苦勞して完成することができた研究は、とても価値のあるものであるといえる。

2 月 2・3 日 2 学年成果発表会の様子



各会場で発表の様子



QRコードを読込み投票

3 月 3 日 成果発表全体会の様子



（３）各教科でのアクティブラーニング

<国語>

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
国語	１年１，２，３組	１２月	石塚 弘幸
１ 題材名 少年の日の思い出 ２ 目標 ・本文を読み、登場人物同士の関係性を捉えよう ・描写に着目し、登場人物の心情を捉えよう ３ 単元計画 第１時 本文を読み、感想を書く。 第２時 語句の確認をし、書いた感想を読み合いながら作品のイメージをもつ。 第３時 「僕とエーミールは友達ということが出来るか」という問いを解決するために、行動描写に着目しながら「僕」と「エーミール」それぞれの心情を付せん紙に書く。（個人・グループ） 第４時 「僕」と「エーミール」の心情の相互関係を視点人物に着目しながら考え、検討する。 ワールドカフェ方式を使い、それぞれの意見を交換し、再度検討する。その後大きな問いについて検討する。 第５時 グループの意見から自分の意見を判断し、作文に書き、互いに読み合う。 ４ 効果 課題解決を意識した授業を構築することで、生徒が思考・判断・表現を意識することができた。６月から話し合い活動を継続する中で、生徒自身が話し合いに慣れ、積極的に学ぼうとする態度ができつつある。今後も継続して学びに向かう姿勢を醸成したい。			

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
国語	１年１組	１０月	松浦 夏海
１ 単元名 評論Ⅰ『美しさの発見』（高階秀爾） ２ 単元の目標 （１）文章の内容を基に、自分の考えや思いを他者と共有し、深めようとする。（関心・意欲・態度） （２）本文と複数の資料を比較検討しながら、美に関する二つの考え方への理解を深め、自分の考えを広げる。（読む能力） （３）文章の構造や論理展開を理解する。（知識・理解） ３ 単元の指導計画 第１時 ・本文の構成を分析する。 ・「美しさの発見」と「発見」の定義の共通点について、本文に即してまとめる。 第２時 ・「放射能」という比喩表現に注目して、「美しさ」とは何かについてペアで意見交換する。 第３時 ・「芥川龍之介が子どもの頃から鋭敏な感受性の持ち主である」と言える理由を、ペアで話し合う。 第４時 ・「美しさ」の所在に対する筆者の考え方を、対比構造を基に本文に即して整理する。			

第5時	・本文と「資料Ⅰ」「資料Ⅱ」「資料Ⅲ」を踏まえて、「美しさ」に対する自分の考えを「小論文」プリントにまとめる。 ・グループで意見発表をする。
4 資料等	資料Ⅰ～Ⅲ（高階秀爾『日本近代の美意識』青土社 1993年、田中真知『美しいをさがす旅に出よう』精興社 2009年）
5 反応	本文の内容と資料Ⅰ～Ⅲの内容を比較検討しながら、自分の考えを深めていく様子が見られた。クラスメートと話し合う過程で得た新たな発見を、文章にまとめる様子が見られた。
6 効果	教科書の本文と複数の資料を読み比べ、クラスメートと意見交換をする中で、物事を多角的に捉えて深く理解することの重要性に気付かせることができた。

<社会・地理歴史・公民>

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
社会科（地理的分野）	中学2年1・2・3組	7月	高野誉士夫
1 単元：日本の人口の変化や特色 2 内容：日本の人口の変化や年齢別人口構成を理解し、人々の生活に及ぼす影響を考える。 3 目的：出生率の低下と少子高齢社会の原因を理解し、国や地方公共団体がすべきこと、企業や社会、私たちができること、やるべきことを考えさせる。 4 反応：多くの班で活発な議論が展開された。それぞれの立場について多くの意見を出し合うことができた。 5 効果：問題には多くの背景があり、その解決にはさまざまな立場の調整が必要であることを、多くの生徒が理解できたと思う。また、問題をさまざまな視点から考える姿勢を身に付けた生徒も見られるようになった。			

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
現代社会	1年1～4組	2学期	島田佐智夫（1～3組）、 大嶋俊彦（4組）
1 単元：科学技術の発達と生命（先人の生き方考え方も含む） 2 内容：生殖補助医療について哲学者の思想を援用して自分の意見をまとめて話し合う。 3 目的：生命倫理の問題を自己に関連する問題として捉えさせとともに、また、既習事項の哲学的内容の理解を深めさせ、生命倫理に関わる課題の本質的部分に気付かせる。 4 反応：生徒ははじめ、生命倫理の課題をよい／悪いといった二分法で捉えがちであった。思想を現実の問題に当てはめて考える段階となると予想以上に、生徒たちは抽象的内容を扱いきれずに戸惑っていた。そこで、グループワークに切り替えて、他の生徒と共に考えさせた。既習の内容（授業順序の前後を一部変更した）の哲学者の思想を援用することで、困惑しつつも考えが深まり、ためらいながらも自分たちの意見を発表する姿があり、課題の本質的な難しさに気付いたようであった。 5 効果：生命倫理が簡単に割り切れる問題でなく、様々な側面から考えるべき問題であるということを多くの生徒が実感できた。また、抽象で難解な印象を持つ生徒が多い倫理分野の復習を兼ねることができた。			

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
現代社会	1年1～4組	2学期	島田佐智夫（1～3組）、 大嶋俊彦（4組）
1 単元：日本国憲法と基本的人権 2 内容：憲法改正は必要か否かについて、憲法一気読み（憲法の内容を1時間かけてすべて読み通して、中でも重要度が高いと思うものをピックアップする）を行った後に社会情勢を踏まえて改正する必要がある内容について考え、グループで議論した後に発表を行う。 3 目的：2年後に成人となる生徒たちに、最高法規である憲法の条文を1つ1つ読み込むことで憲法の理解を深めさせる。そして、社会情勢を踏まえて憲法改正について考えることで主権者として国家を形成していくという意識を高めさせる。また、社会の仕組みについて理解を深める必要性を実感させる。 4 反応：中学校で学んだ知識をもとに憲法一気読み・憲法改正について興味深そうに取り組んでいた。個人の考えをまとめた後のグループでのディスカッションでは、知識不足から議論が停滞する光景もいくつかのグループで見られ、その度に担当教員が必要な内容を当該グループに説明した。グループごとの発表では、担当教員がなぜその条項の改正が必要なのかという視点から更に質問を加			

え、最高法規としての憲法の意味に気づくようにした。担当教員からの質問には答えることができないグループも多く、教員側からの説明が多くなってしまう傾向があったが、生徒は社会について学ぶ必要性を感じた様子であった。

- 5 効果： 憲法の内容はともすれば平坦な条文学習にも成りかねない。そして、生徒は社会＝暗記という誤ったイメージを強めてしまう。しかし、導入として生徒主体の活動を行うことで、憲法学習への期待を高めさせることができた。また、憲法の後に学ぶ、国会、内閣、裁判所、選挙などの内容を学ぶ必要性も感じさせることができたろう。

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
日本史B	2年1, 2組	毎時間	高久順
1 歴史の流れを級友に教え、教わるペアワーク 歴史は、用語より流れが重要である。history はstoryである。 そこで、日本史の授業では、 (ア) 教員によって歴史の流れを一斉授業(30分間) (イ) 生徒ふたりでペアを組む。(ア)の後に、該当問題のところをバディに教える(10分間) 教員の解説を聞き逃したり、理解できなかったりしたところは、バディに聞いて教わる。 その間、教員は机間指導を行い、質問を受け付けたり、助言したりする。 (ア)を聞いていないとバディに迷惑をかけることになるので、寝るような生徒は、まずいない。 教科書や資料も駆使して、いつも生徒はバディに一生懸命になって教えている。 学習指導要領で重視されている「言語力」の向上にも繋がっている。 (例) 応仁の乱の契機 応仁の乱は、将軍足利義教、これはくじ引き神判将軍で魔王と呼ばれたんだけど、これに恐怖のあまり赤松満祐、これは播磨守護なんだけれども、義教を暗殺して播磨に逃げた。幕府中大パニックになったんだけど、というのは将軍が殺されたんだけど、何者のしわざか分からないから管領細川持之も逃げたわけ。その赤松満祐を山名宗全が討ち取ってさ、かつて六分の一衆といわれた山名がまた勢力を回復して・・			

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
地理B	2 学年・3, 4 組	つねに毎時間	高久順

1 問題の解き方・考え方を級友に教え、教わるペアワーク

地理の授業では、

(ア) 教員による一斉授業 (15 分間)

(イ) 生徒ふたりでペアを組む。(ア) の後に、該当問題のところをバディに教える (5 分間)

教員の解説を聞き逃したり、理解できなかったりしたところは、バディに聞いて教わる。

その間、教員は机間指導を行い、質問を受け付けたり、助言したりする。

(ア) を聞いていないとバディに迷惑をかけることになるので、寝るような生徒は、まずいない。

地図帳や資料も駆使して、いつも生徒はバディに一生懸命になって教えている。

学習指導要領で重視されている「言語力」の向上にも繋がっている。

以上のセットを1セット (20 分) とする。

45 分授業なので、毎時2セット行っている。

例 世界の農業

④は乳牛って書いてあるけどパタゴニアは偏西風の風下側で、ただ牧草がアルファルファというすごいやつで確かに牛はいっぱい放牧しているんだけど、ここは大都市部から遠いから、鮮度が命のミルクではなくて肉牛だよ。それからこの土地生産性じゃなくて労働生産性というところがひっかきなんだよ。OK?

<数学>

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
数学	中学2年全クラス	通年	星野淑子・柁木直樹

単元ごとに学習カードに毎時間の記録を記入させている。

学習カードの例

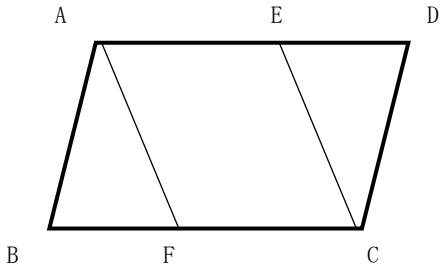
時数	本時の目標	分かったこと・大切な考え	もっと知りたいこと・よくわからないこと

毎時間「分かったこと・大切な考え」「もっと知りたいこと・よくわからないこと」を記述することで、授業を振り返り、主体的に学習に取り組む態度の育成につながると考えられる。

また、単元の終わりに単元全体の振り返りを行っている。

学習して分かったこと	
学習して難しかったこと	
さらに知りたいこと	

単元全体を振り返って記述をすることで、これまでの学習の過程を振り返って、既習の学習内容を関連付けたり、これからの学習を見通したりすることができ、より深い学びにつながるものと考えられる。

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
数学	中学2年	12月	星野淑子・柗木直樹
1 課題 平行四辺形 ABCD の辺 AD、BC 上にそれぞれ、点 E、F を  DE=BF となるようにとる。このとき、四角形 AFCE は平行四辺形になることを証明せよ。 2 生徒の活動 ①上の課題について、できるだけたくさんの方で証明を考える。(2～3人のグループで) ②「平行四辺形になるための条件」は4つり、そのすべての方法で証明することができる。 証明に使った「平行四辺形になるための条件」ごとに発表する。 3 生徒の様子 普通の証明問題は一通りの方法で証明できればそれで終わりにしてしまうが、この課題はいろいろな見方ができる課題である。自分で思いついた方法以外にもさまざまな視点で証明できることに、生徒は驚きを感じたようであった。また、5通りの方法で証明できることを知ると、まだ他の生徒が発表していない方法を見つけようと、意欲を持って課題に取り組み、深い学びになっていた。			

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
数学	1 学年 1 組、3、4 組	年間（緊急事態宣言中を除く）	根岸良輔
1 授業前の生徒の準備 毎日、教科書 3 ページ（内容によっては少なく指定することもある。）を予習する。 2 授業 1. 生徒が二人組になり、先生役と生徒役に分かれて、お互いに教科書の内容を説明し合う。(15 分程度) 2. 教員による全体説明。(短ければ、短いほど良い) 1. において机間巡視し、多くの生徒の理解が浅い所を確認。その部分のみを説明する。 3. プリント演習により内容の復習や予習。 3 授業者の目標 1. より良い人間関係の構築。 偏った競争意識を作らず、お互いに数学を理解することに目的を持ち、共に学び合う仲間である。 「お互いに協力しよう」。との意識を育てる。 ((注意) ペアワークをする前に、いくつかの注意すべき点を説明しました) 2. 主体性を持たせる。 学習することは、生徒自身の目的であり、教員はサポート役にすぎない。自ら学ぶことが出来るという自信を付けさせる。			

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
数学ⅡB	高2年3・4組	6月～3月の授業時間	戸田圭一
1 単元：各節・章が終わったタイミング 2 内容：その範囲の確認シートを配布し、ペア学習を行わせ、教員に質問するのではなく、ペアで問題解決を目指した。 3 目的：能動的に学習をするため、また分からないところを共有し、課題に対してポジティブに解決に当たる素地を作りたい。 4 反応：アクティブに学習し、話し合いの時間のエネルギーは大きいモノである。 5 効果：内容の定着は早く、休み時間などでも課題を話し合っている姿があるので、授業時間外での活動にも良い影響がある。			

<理科>

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
理科	2 学年	1 2 月	中村 公美
1 単元：「電流の性質とその利用」 2 内容：電流のはたらきを表す量(導入) 3 目的：校内にある電気器具に表示されている数字や記号を見つけ、どのような意味があるかを考える。 (※グループごとに行動して見つける。) 4 反応：ちょうど技術で発電について勉強していたため、「AC」や「DC」、「60Hz」や「50Hz」などの表示を見つけたグループは、技術の資料集に載っていた内容を思い出したり、技術の授業で教わったことをグループのメンバーと確認したりするなどして、教科横断的な知識を活用した学習活動を行っていた。 各自の知識を活用しながら見つけた表示やその意味を話し合い、分からないことは資料集やタブレットを用いて調べるなど、主体的な取り組みが見られ、互いに学びを深めていた。グループによっては、延長コードの表示を見つけ、なぜたこ足配線は危険なのかについても考えを深めており、学びを生活に活かすことに繋げることができた。 5 効果：何よりも“グループごとに自由に場所を移動して表示を見つめる”という活動が意欲の向上に効果的だったようだ。天井から床まで熱心に電気器具を探し、表示を見つけて意味を考えていた。今までに得た知識を活用しながら互いに学び合う姿が見られ、単元の導入に効果的だったと感じた。			

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
生物	3年3組・4組	7月17日	清水 紘治
1 単元：「生殖と発生～初期発生の過程～」 2 内容：ウニの受精と受精卵の観察 3 目的：実際のウニの卵と精子を用いてウニの人工受精を行い、生命誕生の瞬間と卵割の様子を観察する。 4 反応：一通り座学で知識を得た状態で実験を行った。生徒は皆大変興味を持って意欲的に取り組んだ。顕微鏡の観察においては、受精卵の形成の仕組みを第一に観察することが目的であったが、どの生徒も大変興味深そうに実験を行った。 5 効果：成功しなかった班もあるが、こちらが何を指示するわけでもなく、成功した班はその成果を共有し合うなど、自然と学び合いの環境ができていた。これが座学で授業を聞いて理解するだけではこのようにはならなかったであろう。普段会話するのは友人同士だけであろうが、このときはその枠を取っ払った大変良好な関係性が、全体を通して見られた。教師がただ前に立って指導するのではなく、生徒同士の協力性や教え合いの精神を伸ばすためには、このように実験・実習を通して生徒自身に考えさせる授業が大変効果的であると感じた。			

<家庭>

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
技・家（家庭分野）	中学2年	10月	森戸 さゆり
1 単元：衣生活分野 2 衣服の着用「②T．P．Oと服装」 2 内容：衣服と社会生活とのかかわりについて学習する単元である。服装を考える時には、T．P．O「時」「場所」「場合」の視点を持つとよい。社会生活を送る上では、個性の表現や他人の差別化よりも、まわりとの調和が優先される場面がある。T．P．Oを考えることは、周囲の人に対するマナー（礼儀や思いやり）でもある。 3 目的：T．P．Oを意識する場面はどんな時か。どのような場面でどのような服装を着用したらよいのかを、「NGの場合」を考えることでT．P．Oの理解を深める。 4 反応：小型ホワイトボードを利用して「T．P．Oを考えたときNGになる場合とは、どんな時にどんな服を着用したときか」をグループ（1班4名）で考えた。「場にふさわしい服装」を考えたときよりも、「NGな服装」を考えたときの反応がよく、具体例も挙げやすそうであった。 5 効果：「なぜその服装がその場面にそぐわないのか」をグループ学習の中で解決していくことができていた。グループでだされた具体例をクラス全体で共有することで理解が深まった。			

<情報>

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
グローバル情報	1年1組	1学期	石川 美恵子
1 単元：コミュニケーション 2 内容：「自己紹介と自己理解」 4人1グループで心理学ゲーム「ジョハリの窓」を利用したプレゼンを行う。前もってグループ内の他の班員の第一印象をワークシートに記入しておく。また、自分の趣味や特技、高校生活への抱負、クラスメイトへのメッセージ等をパワーポイントにまとめる。他の班員から自分の第一印象を一通り聴いてからパワーポイントを利用した自己紹介を行う。パワーポイントの発表を聴くときは、発表者を評価し、ワークシートに記入する。 3 目的：高校からの入学生も含まれる高校入学後後の最初のクラス内で、パワーポイントを利用して自己紹介しあうことで相手のことのみでなく、自己理解を深め、同時に自分も理解してもらうことで親睦が図れるようにする。 4 反応：画像やアニメーションを多く取り入れ、情報を文字だけでなく、視覚的に伝達することにも力を入れていた。また、指定された項目だけでなくオリジナル項目についての発表も多数あった。プレゼンを評価するために発表者の話を良く聞いていた。 5 効果：附属中からの進学者でお互いに顔見知りであっても、新たな一面を知ることができて楽しかったという感想が多かった。発表は一人一人個性が現れていた。			

<英語>

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
英語科	中学2年	2・3学期	栗原 啓子
1 単元： Lesson 5 ‘Uluru’ Lesson 6 ‘My Dream’ Lesson 7 ‘Presentation’ Lesson 8 ‘India, My Country’ 2 内容： 本文内容のオーラル・プレゼンテーション（retelling）をしよう Lesson 5（ウルルの特徴を観光客に伝える） Lesson 6（Kenの将来の夢についてのスピーチ内容を説明する） Lesson 7（人と連絡を取る手段について、アンケート結果をもとに自分の考えを述べる） Lesson 8（インドの言語、使用場面や歴史について、自分の考えを交えて説明する） 3 目的： ・教科書の本文内容理解 ・スピーキング力の向上 ・まとまりのある文章を書く力の向上 4 方法： ①1単元の本文を読み、大まかに内容をつかむ。 ②本文内容を自分の言葉で説明するためのポイントを確認する。 ③何を、どのような順番で説明するかを整理するためマッピングを行う。 ④ペアになり、マッピングを見ながら本文内容を説明する。（教科書を見ても可。） *授業のウォームアップとして複数回行う。 ⑤これまで説明した内容をワークシートに書き、教師が添削して返却し、見直す。 5 反応・効果： はじめは教科書通りの表現を使いながらの説明であったが、回数を重ねるごとに自分なりの考えを加えるなどして、自由に説明する生徒が増えてきた。マッピングを見ながら説明することで、本文内容理解の確認と、英語を日本語に変換せず話すトレーニングになり、スピーキング力の向上につながっている。			

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
英語	中学3年(習熟度別:全クラス)	11月頃・授業数3時間	鶴田由美子・高木利文・川俣海瑠
1 単元名 Lesson 5 Use-Speak 「留学したい場所についてプレゼンしよう」 2 実施内容 Presentation and Q&A ○教科書の内容では「行きたい場所についてスピーチをしよう」であったが、「留学を自分の力をするために、クラウドファンディングで資金提供をもとめるプレゼンテーションを行う」というより具体的な場面設定を行い、留学したい場所やそこで学びたいこと、そして、学んだことを留学後どうやって社会に還元していきたいかについて意見をまとめ、プレゼンテーションを行った。 3 実施方法 ①「自分の留学したい国」についてマッピングを行い、自分の内容を発展・深化させる。 ②マッピングを元に、英語の原稿を作成する。原稿はA L Tからの添削を受ける。 ②ペアを作り、互いに2分間程度でプレゼンテーションを発表し合う。それを、5回程度行う。 ③プレゼンテーションを聞いた後、Support/Not の判定を互いにする。 4 反応 ・自分の将来の目標や夢について自由に話すことができ、意欲を持って取り組んでいた。 ・生徒ひとりひとりの考えややりたいことが違っているため、聞き手も楽しめている様子が伺えた。 ・プレゼンテーションを聞いた後、Support/Not の判定を行うことで、より主体的に内容を聞き取ろうとする様子が見られた。 5 効果 ・英語を話す目的が明確になり、自分の気持ちを自分の言葉として伝えることができるようになった。 ・ただ留学に行きたい理由を話すのではなく、そこで学んだことを留学後にどうやって社会に還元していくかについても考えさせることにより、より説得力のあるプレゼンテーションになった。			

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
英語表現Ⅱ	高校2年 3組, 4組	3学期	木村 晃子
1 単元：文章を組み立てる 2 内容：1. 最近のニュースや社会問題など、時事問題に関する英文を聞く。 2. 英文に関する問いに答える。 3. 空所があるスクリプトを見ながら英文を聞き、空所を埋める。 4. 英文に関係するトピックに関して、自分の意見をブレインストーミングする。 5. トピックに関してペアで、英語で意見交換をする。 6. トピックに関して自分の考えをまとめ、自分の意見を英文で書く。 7. ペアの書いた英文を読み、コメントする。 3 目的：・英文を繰り返し聞くことで、リスニングの力を育成する。			

・英文に関するトピックについて、自分の考えを深め、英語で表現する。 ・相手の考えを聞いたり読んだりすることで、トピックに関する考えをさらに深める。
4 反応：繰り返し英文を聞くことで、書かれた英文に頼らずに、内容を理解しようとする様子が見られた。また、英文に関するトピックについて自分の意見をまとめたり、他者の意見を取り入れたりすることで、トピックに関して考えを深めていく様子が見られた。
5 効果：リスニングに丁寧に取り組むことで、リスニングに対する意識が高まった。また、聞いた英文に関して、違った角度から自分の考えをまとめることで、多角的に物事を考えようとする様子が見られた。他者の意見を聞いたり読んだりすることで、さらに自分の考えを深める様子が見られた。

実施科目名	実施学年・組	実施時期・期間	実践者名
コミュニケーション英語Ⅲ	3年文系	2学期	川俣 海瑠
1 単元：CROWN English Communication Ⅲ Lesson 4 ~Can Money Make You Mean?~ Optional Reading ~Can Money Buy Happiness?~			
2 目的：パラグラフの関係性に注意して読もう！			
3 内容：本 Lesson では、ディスコースマーカ―や「主張→具体例」という段落構成を意識しながら、パラグラフの関係性に注意して読むことが単元目標となっている。初見の文章をディスコースマーカ―等を踏まえて並び替えるという活動を通して、パラグラフの関係性に意識を向けさせた。教材準備ならびに1時間の流れは以下の通りである。 ①（教材準備）本文を印刷し、パラグラフごとに切り離して、順番をバラバラにして封筒に入れる。 ②（以下、授業）生徒を4人1組に分け、それぞれの班にバラバラになった本文を渡す。 ③生徒は、バラバラになった初見の文章を、ディスコースマーカ―や段落構成に注意しながら、意味が通るように並び替える。 ④班での並び替えが終わったら、他の班と意見交換をする。（なぜその順番になると考えたか、など） ⑤教科書CDを聞いて答え合わせを行う。 ⑥本文内容を確認する。			
4 効果：本 Lesson で培いたかった「パラグラフの関係性に注意して読む」ということを改めて押さえることができた。			
5 反応：生徒の感想としては以下の通り。 『「this question」という指示代名詞を含む語句が段落の1文目に来ていたの、前の段落にはquestionの内容が書かれているんだらうな』などと予測しながら読むことができた。』 「最初の段落には問題提起があり、最後の段落にまとめの文章があると授業で学んでいたの、並べやすかった。本論に当たる部分は並べ替えることが難しかったが、ディスコースマーカ―を見れば並び替えられることが分かった。」 「段落構成を知っておけば、英文を読むときだけでなく書くときにも活用できると感じた。」			

8 S G H活動の成果の発表・普及・啓発

(1) 課題研究発表会

S G H指定最終年度である今年度は、年度当初一斉休校となり、コロナ禍の今後も見通せなかったため、チーム研究ではなく、個人研究の形で進めることを決定した。秋口からは、教室内での三密に配慮したディスカッション、ペアワークでの研究進捗状況のまめな相互発表・講評などという形で、広い意味での協働研究の実現を目指した。

① 課題研究発表会概要

(ア) 日 時

令和3（2021）年2月2，3日の2日間（両日の午後の時間に実施）

(イ) 会 場

各教室。1年生（4学級）6分科会、2年生（4学級）6分科会。

(ウ) 発表形式

1人10分（発表4分＋質疑応答2分＋教員講評2分＋出入り2分）※時間厳守。
各自が自分のポスターを分科会の生徒（最大27名）の人数印刷して配布し、手元資料として使ってもらう。今回、ポスターセッションは行わない。質疑応答は、十分なディスタンスに配慮したうえで実施した。

(エ) ポスター書式

サイズはA4で、モノクロ印刷。3月3日の際はカラー印刷の予定。

(オ) 評価方法

生徒がループブックをもとに相互評価する。教員もループブックをもとに評価する。得点比率は生徒7教員3とした。評価の入力はGoogle フォームを使って生徒がそれぞれスマートフォン等から行った。スマートフォン等を持たない生徒は、学校リースのタブレットを借りて入力した。

(カ) 3月3日（水）に、各学年代表6名ずつ＋S G Hクラブ海外班2班＋国内班2班の成果発表会を行う予定である。この時は大学など校外から審査員が来校し講評などを頂くことになっている。

ポスターセッションは中止、レジ
ュメ発表形式で実施しました



分科会に分かれて行い、質疑応答
も行いました。



1人ひとりを教員が講評。鋭いツ
ッコミが遠慮なく入りました。



(2) 1, 2 年生 課題研究成果発表会

コロナ禍で課題研究の開始が2か月遅れたため、12月開催の予定を3月に開催した。例年、高校1, 2年に加えて附属中3年生が参加するが、本年度は、附属中3年生はHR教室からオンラインで参加した。発表会の様子は、Zoomを通して希望した校外の方々や保護者も視聴した。

下記の第1部、第2部では、本校第一体育館で中学3年、高1、2年生の代表生徒（代表班）及びSGHクラブの代表班によるステージ発表及び質疑応答を英語または日本語で実施した。その前に、高校1, 2年生全員のポスター発表をオンライン上で生徒同士が相互評価し、投票した。

(ア) 日にち 令和3(2021)年3月3日(水)

(イ) 会場 本校第1体育館、中学3年教室、オンライン

<第1部> 課題研究発表

10:00- 開会

10:00-10:10 校長挨拶<配信>

10:10-10:15 発表準備

10:15-10:45 中学3年代表発表(3班[発表7分+QA2分+入れ替え1分=10分])<配信>

10:45-10:55 休憩(10分)

10:55-11:20 SGHクラブ海外班発表(2班[発表7分+QA3分+入れ替え1分=11分])<配信>

11:20-11:35 SGHクラブ国内班発表(1班[発表7分+QA3分+入れ替え1分=11分])<配信>

11:35-12:30 休憩(55分)

<第2部> 課題研究発表

12:30-13:30 高校1年代表発表(6名[発表5分+QA3分+入れ替え1分=9分])<配信>

13:30-14:30 高校2年代表発表(6名[発表5分+QA3分+入れ替え1分=9分])<配信>

14:30-14:40 休憩(10分)

<講評 ~閉会>

14:40-14:45 オンラインで参加された先生方の紹介(教頭)

14:45-15:15 講評(アドバイザー:松金先生、小松先生、運営指導委員5名)

15:15 閉会

中3教室へのオンライン配信の様子



ステージ発表の様子



■ 中学 3 年発表 発表領域とタイトル及び班員名

発表領域	氏名	タイトル	日本語	英語
A〈環境・郷土〉	山田ふうこ、長島 咲太、 五十嵐沙月、海原 透矢	外来種対策～クビアカを撃退！	○	
B〈職業・産業・福祉〉	寺内 音和、柳澤 央佑、渡辺 将有	職場改革のすすめ	○	
C〈伝統文化・国際理解〉	木村香乃音、針谷 采芽、 太田美紗希、酒庭 友里	日本の着物文化を再び - Let's 和服のアップデート	○	

■ SGH クラブ研究班発表

氏名	タイトル	日本語	英語
出井 公人、原 悠馬、 磯田 新太	Toward a Sustainable Society Promotion of Garbage Separation ～ work with Malaysian students～		○
相田 紘夏、内田 小温、 大嶋 美聖乃	Realization of Autonomous learners ～International Collaborative Development of Rubric as a Self-evaluation tool ～		○
猪瀬 遥大、青山 怜慈、 赤塚 真理、岩地 優	災害被害を最小限に抑えるまちづくり～減災を中心とした環境都市～	○	

■ 高校 1 年発表

高 1 年 氏名	タイトル	日本語	英語
篠原 彩絢	減災につながる避難場所 ～避難場所に足りないものとは何か～	○	
中村 そのか	「居場所」を通して 貧困・虐待に苦しむ佐野市の子どもを救うために	○	
尾花 彩華 加藤 瞳	余剰米でお肌つやつや計画！	○	
小松崎 寛人 関根 圭汰 横塚 功樹	Be reborn Tochigi citizens! ～the road to becoming the healthiest in Japan through international collaboration ～		○
荒川 成瑠	佐野の飲食業界に新風を	○	
笹村 色織	臨機応変に対応できる社会へ！～With オンライン授業～	○	

■高校2年発表（13:30-14:30）

順	高2年 氏名	タイトル	日本語	英語
1	矢部 くるみ	大学生に求められる英語力と現状	○	
2	小林 杏珠	フェアトレードを通して フェアな世界へ To be the fair world through fair trade		○
3	加藤 真結花	萌えキャラで地域活性化!!	○	
4	岡部 豪太	再生可能エネルギー導入推進政策の比較検討 Exploring "the best policy" to introduce renewable energy with AI		○
5	中島 碧	ニラ消毒液の開発	○	
6	川俣 蒼生	デジタル教材の普及 Promotion of digital textbooks		○

■ポスター投票結果（ポスター優秀生徒には賞状授与）

高校1年

順位	学年組番	組番	年	組	番	氏名	男女	ひらがな	投票数
1	1109	109	1	1	9	尾花 彩華	女	おばな あやか	58
1	1111	111	1	1	11	加藤 瞳	女	かとう ひとみ	58
2	1114	114	1	1	14	小松崎 寛人	男	こまつぎ ひろと	56
2	1140	140	1	1	40	横塚 功樹	男	よこづか こうき	56
2	1120	120	1	1	20	関根 圭汰	男	せきね けいた	56
3	1138	138	1	1	38	山口 敏弥	男	やまぐち としや	39
4	1209	209	1	2	9	小野 悠人	男	おの ゆうと	32

高校2年

順位	学年組番	組番	年	組	番	氏名	男女	ひらがな	投票数
1	2316	316	2	3	16	加藤 真結花	女	かとう まゆか	68
2	2233	233	2	2	33	山崎 理紗子	女	やまざき りさこ	58
3	2124	124	2	1	24	津久井 友貴	男	つくい ともき	49
4	2430	430	2	4	30	中島 碧	女	なかじま あおい	32
5	2301	301	2	3	1	青木 華瑚	女	あおき かこ	31

高校 1 年ポスター一例
(下段 3 枚)

(2) 他校種への普及活動 ～佐野市立天明小学校への出前授業～

- ・日時 令和2(2020)年9月25日(金)
- ・目的 小学生にSDGsへの関心を持ってもらう
- ・内容 小学2年生、4年生、6年生に対し、多角的に物事を見ることが求められるディベートを通じてSDGsについて考える授業を行った。

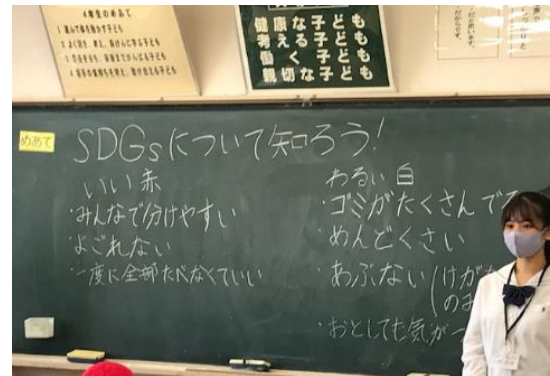
ア 小学2年生の授業

「エコバッグとレジ袋はどちらが良いか」というテーマで、プラスチックゴミ問題について考えてもらうことを目的に授業を行った。小学2年生にとってディベートをすることは難易度が高いため、エコバッグとレジ袋のメリット・デメリットを考えた。A5サイズの紙にメリット・デメリットを書き出し、黒板に貼り付けて意見交換をした。この授業を通して、小学生は多角的な考え方を学んだ。



イ 小学4年生の授業

2年生と同様、4年生もプラスチックゴミ問題を考えてもらうことを目的に授業を行った。小学生は、お菓子の過剰包装について賛成か反対か、自分の意見を赤白帽で表した。小学生の間で活発な意見交換が行われ、「そういう考えもあったのか」「なるほど」という声が多く上がった。



ウ 小学6年生の授業

「コンビニエンスストアは24時間営業を続けた方がいいかどうか」というテーマで、働くことや経済活動について考えてもらうことを目的に授業を行った。高校生がコンビニの24時間営業のメリット・デメリットをプレゼンした後、小学生同士で意見交換をした。高校生のプレゼンの中には「夜中に不審者に襲われた際に逃げ込める場所の役割をコンビニが果たしている」など、今まで気づかなかったコンビニの意義が話されており、小学生は高校生の話をよく聞いていた。

エ 生徒の感想

私は6年生の授業を主に担当しました。反省点は多々ありましたが、何より小学生同士の話合いがとても活発で、真剣にSDGsについて考えてくれたことがありがたかったです。また後日、下校中に私たちに気づいた天明小の子どもたちが「とても楽しかったです！」と話しかけてくれ、やってよかったと心から感じました。

ただでさえ難しいSDGsの概要を、どのようにして小学生に理解してもらうかという課題に対して、チームメンバーと共に、数ヶ月にわたって念入りに準備をし、授業を行いました。結果は成功に終わり、小学生からは「楽しかった」という声が聞こえて嬉しかったです。これからも学生という立場から、地域に貢献した活動を進めていきたいです。

今回「ディベートを通したSDGsの認知度向上」という目的は達成できたと思います。しかし、ターゲットを広げていく上での問題点なども多く浮上しました。今後はそれらを踏まえ、改善していきたいです。

自分たちが伝えたいことを、果たしてそのまま伝えて理解してもらえるのか？という疑問が常にありました。しかし、小学生たちは授業に積極的に参加してくれて、こちらの予想以上の内容にまで掘り下げてくれました。また、今回の授業を通して、自分の新たな面を見ることができた気がします。協力してくださった方々、本当にありがとうございました。



(3) 各種行事、講演会等での発表・大会、コンテスト等への参加

ア SGH クラブ研究班

(ア) とちぎの高校生課題研究等発表会 (県主催)

- ① 日時 令和2(2020)年11月7日(土)
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ海外班(6名)
- ④ 内容 県内数校が課題研究等を発表した。佐野高校はSGH クラブ海外班の2グループがマレーシアセント・テレサ校等との国際協働研究を英語で発表した。

イ 第3回全国高校生SRサミット～FOCUS～(立命館宇治高等学校主催)

- ① 日時 令和2(2020)年11月14日(土)、15日(日)
- ② 場所 本校PC室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ海外班、国内班(計15名)
- ④ 内容 他校の高校生等及び日本に留学中の国際学生(大学)とSDGsに関わる各校のプロジェクトの課題について協働で取り組み、その解決策を検討することを通して、互いに学び高め合う機会とする。各分野に専門性を持つ社会人の方もメンターで入った。

ウ 本県水俣高校合同SGH クラブ研究班(国内)中間発表

- ① 日時 令和2(2020)年12月18日(金)
- ② 内容 熊本県立水俣高等学校と合同で中間発表を行った。詳細は10ページ参照

エ 第3回全国高校生フォーラム(文科省主催)

- ① 日時 令和2(2020)年12月20日(日)13:00-16:00
- ② 場所 本校PC室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ海外班(5名)
- ④ 内容 マレーシアFWを含む研究内容を英語で発表

オ 2020年度ぼうさい甲子園(毎日新聞社など主催)

- ① 日時 令和3(2021)年1月17日(日)
- ② 場所 オンライン
- ③ 参加者 本校生徒会
- ④ 内容 優れた防災教育を顕彰するぼうさい甲子園で、本校が「しなやかwithコロナ賞」に選ばれた。新型コロナウイルスの感染拡大で、各校が文化祭を中止する中、生徒会を中心に感染防止策を徹底して開催し、成功させたことが評価された。

カ 第3回全国高校生SRサミット～AFTER FOCUS～(立命館宇治高等学校主催)

- ① 日時 令和3(2021)年2月13日(土)
- ② 場所 本校PC室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ海外班、国内班(計12名)
- ④ 内容 SRサミット以降のその後の研究成果を全国の高校生と互いにシェアした。

キ CIEC コンピュータ利用教育学会 U-18 の部 研究発表

- ① 日時 令和3(2021)年3月21日(日)
- ② 場所 本校PC室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ海外班(3名)
- ④ 内容 マレーシアのコンピュータ機器を利用した国際協働研究の成果を発表(日本語)

ク 第3回 WWL×SGH 探究甲子園 日本語プレゼンテーション部門 発表

- ① 日時 令和3(2021)年3月21日(日)
- ② 場所 本校PC室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ海外班(3名)
- ④ 内容 マレーシアの高校生との国際協働研究の成果を発表(日本語)

ケ 日本地理学会春季学術大会 2021 高校生ポスターセッション 発表

- ① 日時 令和3(2021)年3月26日(日)
- ② 場所 本校PC室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブ国内班(3名)
- ④ 内容 国内班3班のうち1つが研究成果をオンラインで発表(日本語)

3 ディベート班

ア 文部科学省後援 PDA 全国高校即興型ディベート合宿・大会 2020

- ① 日時 令和2(2020)年8月8日(土)、9日(日)
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブディベート班(10名)
- ④ 内容 即興型のディベートを行い、生徒2名がベストPOI賞を受賞。また、1年生チームは7戦6勝、2年生チームも強豪校を破るなど、好成績を残した。

イ 第12回 D-1 英語ディベート選手権大会兼第15回全国高校生英語ディベート大会栃木県予選大会

- ① 日時 令和2(2020)年11月3日(火)
- ② 場所 栃木県立宇都宮高等学校
- ③ 参加者 SGH クラブディベート班(23名)
- ④ 内容 準備型のディベートの試合を行い、県大会Aリーグ学校別3位となり、全国大会への出場権を獲得した。

ウ 文部科学省後援 第6回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会

- ① 日時 令和2(2020)年12月19日(土)、20日(日)
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 参加者 SGH クラブディベート班(3名)
- ④ 内容 メンバーの一人がベストディベーター賞を受賞するなど、即興でディベートの試合を行った。また、予選全勝し全国ベスト8に入賞した。

エ 第15回全国高校生英語ディベート大会

- ① 日時 令和2(2020)年12月26日(土), 27日(日)
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 参加者 SGHクラブディベート班(4名)
- ④ 内容 準備型のディベートで、予選を4勝1敗1分けし、全国大会で5位に入賞することができた。

オ 第10回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯栃木県大会

- ① 日時 令和3年(2021)年1月31日(日)
- ② 場所 各自自宅、オンライン
- ③ 参加者 SGHクラブディベート班(23名)
- ④ 内容 1人5分の持ち時間がある難易度の高い即興型のディベート大会で優勝。全国大会への出場権を獲得した。

カ 栃木県英語ディベート冬季大会

- ① 日時 令和3年(2021)年3月13日(土) 予定
- ② 場所 各自自宅、オンライン
- ③ 参加者 SGHクラブディベート班(23名)
- ④ 内容 今年度最後の県大会で、即興型のディベートを行う。

キ 第10回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯

- ① 日時 令和3(2021)年3月21日(日)、22日(月) 予定
- ② 場所 本校英語演習室、オンライン
- ③ 参加者 SGHクラブディベート班(3名)
- ④ 内容 1人5分(決勝トーナメントは7分)の持ち時間がある即興型ディベート大会。上位入賞校には、副賞として海外研修等が贈られる。

3 フランス語班

ア 東日本高校生フランス語暗唱コンクール参加

- ① 日時 令和3(2021)年2月26日(金) 13:00~17:00
- ② 場所 本校英語演習準備室、オンライン
- ③ 参加者 フランス語班(2名)
- ④ 内容 文学作品の一遍を暗唱する。

(4) 各種広報活動 (SGH 通信の発行履歴)

号数	タイトル
No. 0 1	SGHアドバイザーオンライン会議を行いました
No. 0 2	佐野高校生バレエ海外留学
No. 0 3	学校教育デザイン講話 (オンライン研修)
No. 0 4	マレーシア・セントテレサ校とオンライン会議
No. 0 5	宇都宮大学大久保達弘先生 (農学部教授) ウェビナー開催
No. 0 6	宇都宮大学栗原俊輔研究室とオンライン交流
No. 0 7	宇都宮大学大久保達弘先生 (農学部教授) ウェビナー2回目
No. 0 8	NPO法人エコロジーオンライン・ウェビナー開催
No. 0 9	スリランカの小学校と最初のオンライン交流
No. 1 0	SNS適性利用啓発リーフレット贈呈式
No. 1 1	SGHクラブ海外班・セントテレサ校とオンラインミーティング
No. 1 2	JICA筑波を訪問しました
No. 1 3	マダガスカルの現地とオンライン交流
No. 1 4	アジア開発銀行中根誠人先生講話 (校内)
No. 1 5	第1回SGH運営指導委員会報告
No. 1 6	ディベート班大会報告
No. 1 7	小松俊明先生 (東京海洋大学教授) ウェビナー
No. 1 8	SGH海外班・St.Teresa校との協働研究開始
No. 1 9	高1地域リーダーズシンポジウム開催
No. 2 0	SGHクラブ・ヴェトナムFPT高校と合同ワークショップ
No. 2 1	上岡先生SGHウェビナー
No. 2 2	市立天明小学校FW
No. 2 3	高2英語プレゼンコンテスト
No. 2 4	科学部「集まれ!理系女子」第4回九州大会参加
No. 2 5	SGH国内班HUG体験報告
No. 2 6	ディベート班報告
No. 2 7	SGH国内班研究中間発表会
No. 2 8	台湾慈濟日本支部インタビュー調査
No. 2 9	ディベート班報告
No. 3 0	ディベート班報告
No. 3 1	SGHクラブ海外班研究中間発表会
No. 3 2	とちぎ高校生課題研究等発表会
No. 3 3	CIECコンピュータ利用教育学会参加決定
No. 3 4	第3回WWL×SGH探究甲子園参加決定
No. 3 5	校内SGH課題研究成果発表会
No. 3 6	日本地理学会参加決定
No. 3 7	第3回全国高校生SRサミットAFTER FOCUS参加報告
No. 3 8	スリランカの小学校と2回目のオンライン交流